

地方独立行政法人長野県立病院機構
第3期中期目標期間業務実績の評価結果

令和7年9月

長野県

目次

		頁
第 1	中期目標期間の評価の概要	1
第 2	評価結果	4
	大項目 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	6
	小項目 1-1 県立病院が担うべき医療等の提供	7
	小項目 1-2 地域連携の推進	17
	小項目 1-3 医療従事者の養成と専門性の向上	21
	小項目 1-4 医療の質の向上に関すること	26
	大項目 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	32
	小項目 2-1 業務運営体制の強化	33
	小項目 2-2 働き方改革への対応	34
	小項目 2-3 職員の勤務環境の向上	36
	大項目 3 財務内容の改善に関する事項	38
	小項目 3-1 経常黒字の維持	39
	小項目 3-2 経営基盤の強化	40
	大項目 4 その他業務の運営に関する事項	44
	小項目 4-1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理	45
	小項目 4-2 施設整備及び医療機器に関する事項	46
	小項目 4-3 中期計画における数値目標の設定	46
	小項目 4-4 積立金の処分に関する計画	46

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第1項に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の第3期中期目標期間（令和2年度から令和6年度）における業務の実績に関する評価（以下「中期目標期間実績評価」という。）を行った。

第1 中期目標期間実績評価の概要

1 中期目標期間実績評価の目的

中期目標期間実績評価は、中期目標の変更を含めた、業務運営の改善等に資することを目的とする。

2 中期目標期間実績評価に関する基本方針等

中期目標期間実績評価は、「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の中期目標期間の業務実績に関する評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて行った。

3 中期目標期間実績評価の視点

第3期中期目標期間の5年間（令和2年度～令和6年度）において、中期計画に沿った病院運営が確実に行われ、また、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善が図られているかどうかを検証し、第3期中期目標の達成状況について、評価を行う。

4 項目別評価及び総合評価の方法、評価区分

(1) 小項目別の評価、大項目別の評価及び総合評価

年度計画の達成状況について評価を付すこととする。

なお、大項目別の評価及び総合評価においては、中期計画の進捗状況について、記述式による評価を行うこととする。

(2) 中期目標期間実績評価の評価区分

「S、A、B、C、D」の5段階とし、次の場合で、機構から報告書等において十分な説明があった場合、評価において考慮する。

- 予想し難い外部要因により業務が実施できなかった場合
- 外部要因に対して機構が自主的な努力を行った場合
- 先駆的な取り組みや創意工夫を行った場合

評価区分	判断の目安となる業務実績	定量的目標における目安
S	中期目標・中期計画を大幅に上回って達成している	年度計画値の120%以上
A	中期目標・中期計画を達成している	年度計画値の100%以上120%未満
B	中期目標・中期計画を概ね達成している	年度計画値の80%以上100%未満
C	中期目標・中期計画を下回っており、改善を要する	年度計画値の60%以上80%未満
D	中期目標・中期計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する	年度計画値の60%未満

(参考) 令和2年度の評価区分と業務実績の関係

評価区分	判断の目安となる業務実績	定量的目標における目安
S	中期目標・中期計画を大幅に上回って達成している	年度計画値の120%以上
A	中期目標・中期計画を達成している	年度計画値の100%以上120%未満
B	中期目標・中期計画を下回っており、改善を要する	年度計画値の80%以上100%未満
C	中期目標・中期計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する	年度計画値の80%未満

5 地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

中期目標期間実績評価を行うにあたり、地方独立行政法人法第28条第4項及び実施要領の規定に基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）を7月25日及び8月26日に開催し意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

（50音順、敬称略、○は委員長）

氏 名	役 職 等
あいざわ ひでゆき 鮎 澤 英 之	あがたグローバル税理士法人 公認会計士・公認不正検査士・公認内部監査人
うちやま のりえ 内 山 詞 恵	地方独立行政法人長野市民病院 事務部医事課参事・地域医療連携室参事・認定看護管理者
おお しま あけ み 大 島 明 美	株式会社 信濃公害研究所 代表取締役
かわい ひろし 川 合 博	前伊那中央病院院長
こ いけ けん いち ○小 池 健 一	長野県厚生農業協同組合連合会 南長野医療センター篠ノ井総合病院名誉院長
た した か よ 田 下 佳 代	弁護士
はまだ じゅん 浜 田 淳	川崎医療福祉大学 医療福祉経営学科 特任教授

第2 評価結果

(1) 評価一覧表

総合 評価	機構の 自己評価	県の評価
	C	C

大項目

		機構の 自己評価	県の評価
1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置		B	A
小項目	細項目		
1-1	県立病院が担うべき医療等の提供	B	B
	1-1-1 地域医療の提供	B	B
	1-1-2 高度・専門医療の提供	A	A
	1-1-3 災害医療等の提供	A	A
	1-1-4 認知症の専門医療の提供	B	B
	1-1-5 介護サービスの提供	C	B
1-2	地域連携の推進	A	A
	1-2-1 地域医療構想への対応	B	B
	1-2-2 地域包括ケアシステムの推進	A	A
	1-2-3 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進	A	A
1-3	医療従事者の養成と専門性の向上	A	A
	1-3-1 県内医療に貢献する医師の確保・養成	B	B
	1-3-2 機構職員の養成	A	S
	1-3-3 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献	A	A
	1-3-4 信州木曽看護専門学校の運営	C	B
1-4	医療の質の向上に関すること	B	B
	1-4-1 より安全で信頼できる医療の提供	B	B
	1-4-2 医療等サービスの一層の向上	C	C
	1-4-3 先端技術の活用	S	A
	1-4-4 信州大学等との連携	S	A
	1-4-5 医療に関する研究及び調査の推進	B	B
2	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	C	C
2-1	業務運営体制の強化	C	C
2-2	働き方改革への対応	B	B
2-3	職員の勤務環境の向上	C	C
3	財務内容の改善に関する事項	C	C
3-1	経常黒字の維持	C	D
3-2	経営基盤の強化	B	C
	3-2-1 収益の確保	B	C
	3-2-2 費用の抑制	B	C
4	その他業務の運営に関する事項	C	C
4-1	コンプライアンスの推進と適切な情報管理	A	B
4-2	施設整備及び医療機器に関する事項	D	D
4-3	中期計画における数値目標の設定	B	B
4-4	積立金の処分にに関する計画	—	—

(2) 評価結果の概要

新型コロナウイルス感染症の流行で全県が未曾有の危機に直面する中、感染者受入れ、検査、ワクチン接種等に積極的に取り組むなど、県立病院としての役割と使命を十分に果たした。

その一方で、「中期目標期間内の累計で経常収支比率100%以上」の目標が未達成、資金収支の赤字等、財務面での課題が顕在化した。

今後、人口減少やコロナ後の医療ニーズの変化も見据え、令和6年度から開始した機構未来プロジェクトで既に改善に着手している点を含めて、経営基盤の強化に引き続き取り組むとともに、効率的で質の高い医療を持続的に提供していく体制を構築することが求められる。

機構自己評価	県による評価
C	C

(3) 項目別評価

大項目Ⅰ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

機構の評価 B

県の評価 A

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価
大項目Ⅰ 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 病院機構は、患者中心の安全で安心な医療を提供するため、常に医療機関としての機能向上に努め、県民の健康の維持及び増進に寄与する。 また、医療機関を含め地域との連携を図るとともに、医療人材の養成を通して県内の医療水準の向上を図る。	第3期中期計画の期間における医療の提供に関しては、各病院が、地域の中核的な病院として、また、県の政策医療を担う公的病院として、地域の需要に即した医療及び高度・専門医療の提供について、医療機能の充実や診療体制の強化に積極的に取り組むとともに、きめ細かな医療サービスの提供に努めた。	●各病院は、地域の医療需要に応じた政策医療や高度・専門医療、災害医療等を提供するとともに、専門医の養成など、県立病院が担うべき役割と使命を果たしたと認められ、中期目標・中期計画を達成している。 特に新型コロナウイルス感染症については、信州医療センターをはじめとした各病院において、令和5年度まで感染者の受入れ、検査やワクチン接種など、感染症への適切な診療や感染防止対策に貢献した。他、救急患者の受入、精神に関する指標、小児・周産期の手術等で優れた実績を残した。 ●地域医療構想における各地域での役割や、地域包括ケアシステム市町村等関係機関との連携を推進した。 ●医師養成、機構職員の養成、県内医療技術者の技術水準の向上を推進した。信州木曽看護専門学校は、継続した合格率100%により、看護師の輩出に貢献した。 ●研修等の実施により事故等の件数が概ね改善しているほか、クリニカルパスや入退院支援などの取組により、患者サービスの向上に努めている。 ●オンライン診療等の積極的な導入により、医療従事者の負担軽減や業務の効率化、地域の診療機能の充実に取り組んでいる。 ●信州大学等と連携した研究活動、研究調査や出前講座、広報等に積極的に取り組んでいる。

【第4期中期目標期間に取り組むべき課題】

●小項目1-1や1-4で悪化している指標がある。問題の分析を行い、病院で行える対策を講じられたい。特に、医療安全の指標は年度計画での目標値の設定を検討されたい。 ●人員が増加している病院がある一方で、診療科によっては体制の維持が困難になる病院も見受けられる。今後、医療資源の需給バランスが厳しくなることを踏まえ、診療圏における医療ニーズを把握し適切な医療提供体制及び人員の見通しを明らかにすることが求められる。併せて既に機構内で検討が進められている医師等の融通の仕組みを構築することで、引き続き県立病院の役割と使命を果たしていただきたい。 ●患者満足度調査は、県民が各病院の医療をどう評価しているかを把握する観点で重要である。中期計画でも指標に位置付けられていることから、引き続き調査を行うこと。また、病院間で異なる調査方法が用いられており比較や評価が難しいため、機構内で統一した尺度で満足度が測られるよう、指標等を検討されたい。 ●信州木曽看護専門学校について、認知度向上への様々な取組は実施されているが、受験者数、入学者数ともに減少が続いていることから、今までと異なる対策に取り組まれたい。

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																																																																											
小項目Ⅰ－Ⅰ 県立病院が担うべき医療等の提供	全体	－				B	B	●各病院は、地域医療（地域医療、へき地医療）、高度・専門医療（感染症、精神、高度小児・周産期、がん）、災害医療等、認知症の専門医療、介護サービスにおいて、県立病院が担うべき役割と使命を果たした。																																																																																									
細項目Ⅰ－Ⅰ－Ⅰ 地域医療の提供		（「中期計画」の列は、中期計画に計画値がある指標のみ記載する。）				B	B																																																																																										
ア 地域医療 各病院は、地域の医療需要に応じた診療体制を整備するとともに、診療機能の充実を図る。 阿南病院及び木曽病院は、関係機関等と連携し在宅医療を提供する中で、地域包括ケアシステム注2）の中核としての役割を果たす。 信州医療センターは、産科医療体制の充実に努めるとともに、院内助産体制の整備について検討し、木曽病院は、産科医療体制を維持する。	全体	【救急患者数】 (単位：件) <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>4,715</td><td>5,747</td><td>7,739</td><td>6,778</td><td>7,051</td></tr><tr><td>こころの医療センター胸ヶ根</td><td>272</td><td>226</td><td>169</td><td>177</td><td>153</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>932</td><td>1,019</td><td>1,254</td><td>1,612</td><td>1,676</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>2,784</td><td>3,284</td><td>3,398</td><td>3,506</td><td>3,942</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>3,199</td><td>3,447</td><td>3,462</td><td>3,745</td><td>3,418</td></tr></table> 【手術件数】 (単位：件) <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>1,683</td><td>1,600</td><td>1,697</td><td>1,823</td><td>1,898</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>71</td><td>86</td><td>88</td><td>102</td><td>91</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>537</td><td>686</td><td>457</td><td>494</td><td>475</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>1,683</td><td>1,667</td><td>1,583</td><td>1,596</td><td>1,530</td></tr></table> 【人間ドック件数】 (単位：件) <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>1,913</td><td>2,091</td><td>2,294</td><td>2,472</td><td>2,557</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>212</td><td>242</td><td>238</td><td>263</td><td>286</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>452</td><td>515</td><td>503</td><td>586</td><td>608</td></tr></table>				病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	4,715	5,747	7,739	6,778	7,051	こころの医療センター胸ヶ根	272	226	169	177	153	阿南病院	932	1,019	1,254	1,612	1,676	木曽病院	2,784	3,284	3,398	3,506	3,942	こども病院	3,199	3,447	3,462	3,745	3,418	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	1,683	1,600	1,697	1,823	1,898	阿南病院	71	86	88	102	91	木曽病院	537	686	457	494	475	こども病院	1,683	1,667	1,583	1,596	1,530	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	1,913	2,091	2,294	2,472	2,557	阿南病院	212	242	238	263	286	木曽病院	452	515	503	586	608		●各病院は、地域の医療需要に応じ、救急医療、産科医療、在宅医療等求められる医療を適切に提供し、県立病院が担うべき役割と使命を果たした。 ●人員が増加している病院がある一方で、診療科によっては体制の維持が困難になる病院も見受けられる。今後、医療資源の需給バランスが厳しくなることを踏まえ、診療圏における医療ニーズを把握し適切な医療提供体制及び人員の見通しを明らかにすることが求められる。併せて既に機構内で検討が進められている医師等の融通の仕組みを構築することで、引き続き県立病院の役割と使命を果たしていただきたい。 ・救急患者の受入で優れた実績を残した。
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																																												
信州医療センター	4,715	5,747	7,739	6,778	7,051																																																																																												
こころの医療センター胸ヶ根	272	226	169	177	153																																																																																												
阿南病院	932	1,019	1,254	1,612	1,676																																																																																												
木曽病院	2,784	3,284	3,398	3,506	3,942																																																																																												
こども病院	3,199	3,447	3,462	3,745	3,418																																																																																												
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																																												
信州医療センター	1,683	1,600	1,697	1,823	1,898																																																																																												
阿南病院	71	86	88	102	91																																																																																												
木曽病院	537	686	457	494	475																																																																																												
こども病院	1,683	1,667	1,583	1,596	1,530																																																																																												
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																																												
信州医療センター	1,913	2,091	2,294	2,472	2,557																																																																																												
阿南病院	212	242	238	263	286																																																																																												
木曽病院	452	515	503	586	608																																																																																												

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																																							
(1-1-1ア 続き)	【分娩件数】 (単位：件) <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>223</td><td>256</td><td>253</td><td>189</td><td>169</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>72</td><td>75</td><td>78</td><td>76</td><td>45</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>292</td><td>293</td><td>312</td><td>265</td><td>247</td></tr></table> 【在宅医療件数（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）】 (単位：件) <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>9,147</td><td>8,276</td><td>7,864</td><td>5,987</td><td>5,520</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>4,148</td><td>4,103</td><td>3,631</td><td>3,211</td><td>2,774</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>5,561</td><td>5,840</td><td>4,618</td><td>4,483</td><td>5,628</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>54</td><td>44</td><td>51</td><td>74</td><td>117</td></tr></table>					病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	223	256	253	189	169	木曽病院	72	75	78	76	45	こども病院	292	293	312	265	247	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	9,147	8,276	7,864	5,987	5,520	阿南病院	4,148	4,103	3,631	3,211	2,774	木曽病院	5,561	5,840	4,618	4,483	5,628	こども病院	54	44	51	74	117		
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																							
	信州医療センター	223	256	253	189	169																																																							
木曽病院	72	75	78	76	45																																																								
こども病院	292	293	312	265	247																																																								
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																								
信州医療センター	9,147	8,276	7,864	5,987	5,520																																																								
阿南病院	4,148	4,103	3,631	3,211	2,774																																																								
木曽病院	5,561	5,840	4,618	4,483	5,628																																																								
こども病院	54	44	51	74	117																																																								
●信州 ・須高地域の分娩を担う施設としての役割を果たすため、令和4年7月の産科医師の退職に合わせて、助産師の活用と医師のタスク・シフトを目的に院内助産を開始し、令和6年度には院内助産体制の見直しを実施。産科医師、小児科医師との連携を図り、産科医療体制を維持。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況下においては、一定の条件で立ち合い分娩を継続するとともに、安心して妊娠、出産、育児ができるよう、Zoomでペアレンツクラス（両親学級）とヨガ教室を実施。 ・「須坂モデル」を基盤に地域との多職種連携を継続。デイサービス型、宿泊型産後ケアに加え、令和6年4月から訪問型産後ケアを開始し、産後ケア事業を拡充した。 ・高齢化の進展に伴う在宅医療ニーズへの対応として、令和6年4月に訪問看護ステーションはなみずきを開設することにより、医療・保健・福祉の多職種及び関係機関との連携を強化するとともに、在宅医療体制を充実させた。						—																																																							
●木曽 ○ 在宅療養支援病院の指定 ・令和2年7月より在宅療養中の患者のニーズに応えられるよう在宅療養支援病院の施設基準を満たしたことにより、緊急時の連絡体制並びに24時間往診及び24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保した。 ○ 機器共同利用の仕組み構築 ・木曽地域の医療提供体制の充実のため、木曽郡内の診療所が当院の検査機器を共同利用して患者のCT検査、MRI 検査（いずれも単純撮影のみ）等を簡便に行う仕組みを構築し、利用件数は年々増加傾向。 ○ 産科病棟の整備 ・産科の療養環境の改善のため、病棟改修を実施し、令和4年6月からレディースゾーンでの患者の受入れを行った。						—																																																							
●こども ・ドクターカー出動による24時間365日体制での小児重症患者の受入体制を継続し、長野県内の小児周産期医療の最後の砦として小児救命救急（三次救急医療）機能を発揮している。 ・全国的な分娩件数の減少傾向をうけ、令和6年6月より産科病棟として運用していた第3病棟を、小児科を含む混合病棟として運用を変更し、病棟稼働率の向上を図っている。						—																																																							

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価		
(1-1-1 続き) イ へき地医療 阿南病院及び木曽病院は、へき地医療拠点病院として、救急医療体制を含めた地域住民への医療提供体制を維持するとともに、関係機関等との連携のもと、無医地区への巡回診療を行う。 また、へき地診療所からの要請に基づき医師を派遣する等の支援を行う。		【へき地巡回診療回数】 (単位：回)						●阿南病院と木曽病院は、へき地医療拠点病院として、へき地診療所への代診医の派遣、オンライン診療の実施等を行い、地域住民への医療提供を維持した。	
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
		阿南病院	26	26	25	25	25		
		木曽病院	21	19	18	12	12		
		(うちオンライン診療)				4	6		
	●阿南 へき地医療に不可欠な巡回診療実施体制を維持した。								
	●木曽 ○ 診療所への医師の派遣 ・令和2年11月には準地域医療人材拠点病院の指定を受け、医師が体調不良の際や、不在となった診療所に代替医師の派遣を行った。								－
細項目1-1-2 高度・専門医療の提供							A	A	
ア 感染症医療 信州医療センター及び木曽病院は、県が行う感染症対策と連携し、感染症の発生予防やまん延防止を図るとともに、感染症発生時においては、早期に適切な医療を提供する。 信州医療センターは、県の感染症医療の拠点病院として、感染症に対し適切な診療を提供するほか、感染症発生時に迅速な対応ができるよう定期的に受入訓練を実施するとともに、教育機能の拡充及び医療機関、地域住民への最新情報の発信に努める。		【新型コロナウイルス感染症 感染者受入数】 (単位：件)						●感染症医療では、新型コロナウイルス感染症の対応について、5病院とも県立病院としての役割を果たした。 ・令和2年度から令和5年度まで引き続き、感染者受入れや発熱外来受入れ、検査やワクチン接種など、感染症への適切な診療や感染防止対策に貢献した。	
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
		信州医療センター	2,181	2,314	3,294	2,278			
		こころの医療センター駒ヶ根		58	89	89			
		阿南病院	56	49	48	50			
		木曽病院	33	34	109	119			
		こども病院	0	3	55	30			
	●信州 ・感染症医療の中核病院として、新型コロナウイルス感染者の積極的受入れ等、感染症拡大に対応。 ・県内の感染症指定医療機関及び保健所等と連携し、感染症医療をリードするとともに、協定指定医療機関への支援、広域での収容訓練の実施、感染対策情報の随時発信。 ・第一種感染症指定医療機関として一類感染症等に適切に対応するために受け入れ訓練を実施。 ・地域住民を対象とした、院内でのワクチン接種と須坂市のワクチン集団接種会場への医師及び看護師の派遣により、ワクチン接種体制の強化に寄与。 ・海外渡航者外来での海外赴任者等に対するワクチンの予防接種及び帰国後の輸入感染症への対応。 ・県内の感染症指定医療機関及び保健所、行政機関等と連携のもと、令和6年9月にエボラ出血熱疑似症患者発生時の移動実動訓練を実施。								－

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																		
(1-1-2ア 続き)	●木曽 ○ 新型コロナウイルス感染症患者への対応 ・第二種感染症指定医療機関及び重点医療機関として、令和2年4月から病床確保要請に応じ、4階北病棟を新型コロナウイルス感染症専用病棟に転用し、他圏域の患者も含め入院患者を受入れた。 ・発熱外来の設置及び外来・検査センターの受託など、木曽地域唯一の病院として外来におけるコロナ対応についても積極的に行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種への協力 ・病院職員（委託職員含む）へのワクチン接種、木曽郡内町村のワクチン接種への協力を行った。 ○ 感染拡大防止への取組み ・感染拡大防止の取組みとして、正面玄関における体温計測及び体調確認、入院患者への術前抗原定量検査を実施した。また、入院患者について、面会禁止とする一方、オンラインによる面会及び窓越し面会を実施し、面会機会を確保した。					—																																		
イ 精神医療 こころの医療センター駒ヶ根は、県の政策的・先進的な精神医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。 ・精神科救急医療の常時対応型病院として、24時間体制の精神科救急・急性期医療を行うとともに、m-E C T（修正型電気痙攣療法）等の先進的な専門医療を充実する。 ・県全域を対象とした児童・思春期、青年期注3）の精神疾患の専門医療機能を充実させる。 ・アルコール・薬物・ギャンブル等多様な依存症の専門医療機能の強化や医療従事者等への研修の充実を図るほか、ゲーム依存症の診療体制を整備する。 ・心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（平成15 年法律第110 号）に基づく指定入院・指定通院医療機関を運営し、同法の処遇対象者が社会復帰するために必要な医療を行う。	【こころの医療センター駒ヶ根での取組】 <table><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>r-TMS件数 (件)</td><td></td><td></td><td>90</td><td>100</td><td>218</td></tr><tr><td>m-ECT件数 (件)</td><td>243</td><td>245</td><td>322</td><td>293</td><td>394</td></tr><tr><td>ウォークイン救急患者数 (人)</td><td>80</td><td>81</td><td>94</td><td>112</td><td>169</td></tr><tr><td>児童思春期入院患者数 (人)</td><td>58</td><td>58</td><td>61</td><td>58</td><td>49</td></tr></table>					項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	r-TMS件数 (件)			90	100	218	m-ECT件数 (件)	243	245	322	293	394	ウォークイン救急患者数 (人)	80	81	94	112	169	児童思春期入院患者数 (人)	58	58	61	58	49	●こころの医療センター駒ヶ根は先進的な治療法の導入・使用拡大や、多様な依存症への治療法の充実を図るなど、積極的に取り組んでいる。 ・r-TMS（反復経頭蓋磁気刺激療法）の、入院に加えて外来への対象拡大による実施、m-ECT（修正型電気痙攣療法）の体制拡充中により件数が増加している。 ・様々な依存症へのプログラムの提供のほか、インターネット・ゲーム依存症についてもプログラムを充実し対象者を増やすなど、積極的に取り組んでいる。				
項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																			
r-TMS件数 (件)			90	100	218																																			
m-ECT件数 (件)	243	245	322	293	394																																			
ウォークイン救急患者数 (人)	80	81	94	112	169																																			
児童思春期入院患者数 (人)	58	58	61	58	49																																			

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価																																										
(1-1-2イ 続き)	●駒ヶ根 ・令和元年度に開設した「子どものこころ診療センター」において、多角的な視点で早期に治療方針を決定するため多職種チームによる初診診療を実施。また、親が適切な関わり方を学び二次障害の防止を図るため、「ペアレントトレーニング」を開始 ・児童・思春期、青年期精神科医療に対するニーズに対応するため、「子どものこころ総合医療センター」開設に向けて、令和3年度に「基本構想」、令和4年度に「基本計画」、令和6年度に「基本設計」を策定 ・令和2年度に新たにギャンブル依存症の治療プログラムを開発し、県から薬物・ギャンブル等に関する「依存症専門医療機関」及び「依存症治療拠点機関」に指定を受けた ・令和3年度に依存症専門外来を「依存症医療センター」として開設 ・令和2年度から試験的にインターネット・ゲーム依存症患者の受入れを行い、治療評価後、病院独自の治療の枠組みを確立させ、令和4年度から県内初となる入院・外来治療プログラム、家族向けの学習プログラムを開始 ・令和2年度から「依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）」を試行的に開始し、令和3年度に本格稼働	—																																										
ウ 高度小児医療、周産期医療 こども病院は、県における高度小児医療を担う病院として、次に掲げる医療を提供する。 ・高度小児医療の中核病院として診療機能を強化させるとともに、全県的立場で小児重症患者の医療体制を充実する。 ・小児在宅医療の支援体制の充実のほか、信州大学医学部附属病院等と連携した成人移行期患者注4）に対する継続的な医療の充実に取り組む。 ・県の総合周産期母子医療センターとして、県内産科医療機関との連携を図りながら胎児診療を含む周産期医療の維持・向上に努める。	【こども病院での取組】 <table><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>新生児マススクリーニング検査等の高度検査機器を活用した遺伝子検査件数（件）</td><td>13,874</td><td>13,710</td><td>13,485</td><td>10,659</td><td>10,181</td></tr><tr><td>PICU病床稼働率（％）</td><td>72.8</td><td>55.3</td><td>62.1</td><td>72.5</td><td>76.8</td></tr><tr><td>NICU病床稼働率（％）</td><td>81.8</td><td>87.5</td><td>81.2</td><td>78.3</td><td>77.4</td></tr><tr><td>MFICU病床稼働率（％）</td><td>53.9</td><td>56.8</td><td>57.1</td><td>55.3</td><td>52.5</td></tr><tr><td>成人移行期介入患者数（人）</td><td>73</td><td>283</td><td>416</td><td>599</td><td>616</td></tr><tr><td>小児がん 長期フォローアップ外来患者数（人）</td><td>47</td><td>68</td><td>63</td><td>73</td><td>154</td></tr></table> ●こども ・オプション newborn スクリーニング検査事業（対象疾患 原発性免疫不全症及び脊髄性筋萎縮症）を推進し、県内の産科医療機関と連携して県民への啓発と円滑な早期診断・早期治療体制を維持している。 ・小児専門の内分泌代謝科による専門診療体制の充実、県内に少ない小児内分泌分野における専門医の養成機能を強化。新生児マススクリーニング検査とは別に、令和7年1月よりライソゾーム病等の拡大新生児スクリーニング検査を開始した。 ・小児慢性疾患全般に対する小児期から成人期への移行医療を円滑に進めるため、病院全体でサポートする体制を継続し、移行期医療支援外来にて支援を実施している。	項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	新生児マススクリーニング検査等の高度検査機器を活用した遺伝子検査件数（件）	13,874	13,710	13,485	10,659	10,181	PICU病床稼働率（％）	72.8	55.3	62.1	72.5	76.8	NICU病床稼働率（％）	81.8	87.5	81.2	78.3	77.4	MFICU病床稼働率（％）	53.9	56.8	57.1	55.3	52.5	成人移行期介入患者数（人）	73	283	416	599	616	小児がん 長期フォローアップ外来患者数（人）	47	68	63	73	154	●こども病院は、県における高度小児医療・周産期医療を担う病院として、高度専門的な検査・治療への積極的に取り組んでいる。高度専門医療の提供面に加え、信州大学等との連携により、県内の小児・周産期医療の支援的取組にも引き続き貢献されたい。 ・小児がん長期フォローアップ外来患者数は、令和5年度に比べて大幅に増加している。新生児マススクリーニング検査等とあわせて、今後も引き続き取り組まれたい。 ・成人移行期患者や医療的ケア児への支援等については、信州大学等との連携により、こども病院の高度専門的なノウハウを活用した人材育成等に引き続き取り組まれたい。 ・他、手術等で優れた実績を残した。
項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																							
新生児マススクリーニング検査等の高度検査機器を活用した遺伝子検査件数（件）	13,874	13,710	13,485	10,659	10,181																																							
PICU病床稼働率（％）	72.8	55.3	62.1	72.5	76.8																																							
NICU病床稼働率（％）	81.8	87.5	81.2	78.3	77.4																																							
MFICU病床稼働率（％）	53.9	56.8	57.1	55.3	52.5																																							
成人移行期介入患者数（人）	73	283	416	599	616																																							
小児がん 長期フォローアップ外来患者数（人）	47	68	63	73	154																																							

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価	
エ がん医療 質の高いがん医療を提供するため、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、がん診療機能の向上に努める。 信州医療センターは、内視鏡センターの充実強化を図り、木曽病院は、地域がん診療病院として、がん患者の診療及び相談支援体制の充実に努める。また、こども病院は、小児がん診療機能の向上を図るとともに、小児がん連携病院として、小児がん拠点病院と連携して診療体制の整備に努める。	【内視鏡検査件数】 (単位：件)					●信州医療センター、木曽病院、こども病院 は、がん医療における各地域・県内での役割のもと、診療や相談支援の体制の充実を図っている。引き続き第4期中期計画により取り組まれない。 ・木曽病院のがん相談支援センターにおける相談件数は増加傾向にある。引き続き取り組まれない。	
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績		令和6年度実績
	信州医療センター	6,316	6,657	6,836	6,959		6,358
	【対策型胃内視鏡検診受託件数】 (単位：件)						
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績		令和6年度実績
信州医療センター	312	339	452	394	461		
【がん相談支援センターにおけるがん相談件数】 (単位：件)							
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
木曽病院	1,286	1,434	2,064	2,092	2,232		
●信州	・内視鏡センターの充実強化を図るため、市町村と連携し、大腸内視鏡検診・対策型胃内視鏡検診を推進。ピロリ菌専門外来の利用促進と検査受診について積極的な広報を実施。					－	
●阿南	・地域連携室にて各種相談に対応するとともに、自治体広報誌で大腸カメラ受診を特集するなど、予防活動の啓発に努めた。						
●木曽	○ 地域がん診療病院の機能の充実 ・がん相談支援センター及び緩和ケア外来等の運営に加え、令和3年4月には歯科口腔外科を開設し、診療体制を強化した。また、令和5年度には新たに乳がん患者会「マネッティア」を設立し、外部のピア・サポーターを活用する等、患者サービスを向上し、がん診療機能を充実した。					－	
●こども	・小児がん連携病院として、小児がん診療体制及び成人診療科を含めた県内医療機関との連携を強化した。 ・放射線治療装置（リニアック）を活用し、信州大学医学部附属病院と連携し、全県的な小児がん治療体制の充実を図るとともに、地域医療支援病院として地域医療機関からの紹介による成人がん患者を対象とし、乳がん手術後の放射線照射の他、緩和照射も積極的に受け入れ、核医学検査に於いても、地域医療機関からの要望に柔軟に対応する為の検査体制の構築に努めている。					－	

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価				
細項目1-1-3 災害医療等の提供 長野県地域防災計画に基づく県立病院の役割を果たすため、木曽病院は災害拠点病院及びDMAT（災害派遣医療チーム）注5）指定病院として、こころの医療センター駒ヶ根はDPAT（災害派遣精神医療チーム）注6）登録病院として、適時適切な医療活動を行う。 また、他の県立病院においては、関係機関からの要請に応じた職員の派遣や患者の受け入れ等、適切に対応する。 各病院は、災害発生時において必要な医療を確実に提供するため、電子カルテデータのバックアップのほか、災害時における医療提供体制を整備する。	全体	【DMAT隊員数】（木曽病院）（単位：人）					A	A	●木曽病院とこころの医療センター駒ヶ根は、平時からの人員確保、訓練実施により災害時の医療提供体制を整備した。 ・令和6年能登半島地震の災害対応として、それぞれDMATとDPATを派遣し、災害時における医療提供に貢献した。	
		職種	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		医師	3	3	2	2				2
		看護師	11	14	12	11				12
		医療技術職	3	3	4	5				5
		事務	3	3	3	3				3
		【DPAT隊員数】（こころの医療センター駒ヶ根）（単位：人）								
		職種	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		医師	3	3	3	3				4
		看護師	9	9	9	5				3
		医療技術職	11	9	8	3				1
		事務	0	0	0	1				1
		【訓練等実施状況】（単位：件）								
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績				
	こころの医療センター駒ヶ根	0	1	2	1	2				
	木曽病院	2	8	11	12	10				
	●駒ヶ根 ・長野県等の要請に応じて、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生した県内の医療機関や施設にDPATを派遣したほか、業務応援のため県内施設等に看護職員を派遣（DPAT派遣1病院 派遣人数4人、看護職員派遣1病院2施設 派遣人数5人） ・令和5年度には「令和6年能登半島地震」の災害対応としてDPATを派遣（派遣人数5人、活動日数5日）									
●阿南 ・災害発生に備えて電子カルテデータのバックアップを遠隔地のクラウドを利用して行うシステムを導入している。 ・例年実施している災害マニュアルやBCPの更新及び、実地訓練（総合防災訓練、情報伝達訓練）に加え、外部から講師を招いて職員向け講演会を開催し、南海トラフ地震等の甚大な災害が発生した際の医療提供等について認識を深めた。										

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																																																
(1-1-3 続き)	●木曽 ○ 機器・設備の整備 ・老朽化したDMAT救急車の更新を目的とし、令和3年5月にクラウドファンディングを実施。第一目標1,700万円を大きく上回る3,750万円（寄付者1,050人）の寄付額となり、令和4年3月にDMAT救急車を更新した。 ・令和3年10月に井水設備の整備が完了し、災害拠点病院としての機能を強化した。 ○ 災害派遣等 ・令和6年1月1日に発生した能登半島地震について、長野県の要請に基づき1月2日から1月5日まで6人のDMAT隊員を派遣し、能登総合病院及び珠洲市総合病院において患者搬送、病棟支援等の活動を実施した。 ○ 電子カルテデータバックアップ体制の整備 ・令和4年5月の電子カルテシステム更新に伴い、電子カルテデータの遠隔及び静的バックアップの仕組みを整備した。 ○ 実施体制の維持等 ・災害拠点病院及びDMAT指定病院として、国及び県が開催する研修、訓練等に職員を積極的に参加させ、新規隊員の養成及び隊員資格の更新を行い災害医療提供体制を維持した。 ・災害発生を想定して実施する木曽病院災害救護訓練では、毎年約100人の職員並びに木曽保健福祉事務所及び木曽医療圏町村職員が参加し、DMAT隊員のファシリテートのもと、関係機関と連携・協力して木曽地区の防災体制の訓練を実施した。 ・DMAT指定病院の指定を維持するため、厚生労働省DMAT事務局が主催する中部ブロック実動訓練に参加した。						—																																																															
	●こども ・災害時医療体制を整備するため、大規模災害対応マニュアルによって、非常事態宣言後の避難・診療体制を定め、組織的に活動できる様、部署ごとにアクションカードを定めている。 ・非常用電源の燃料は3日分確保し、ライフライン途絶（水・電力・ガス・医薬品等）時の影響やその対応方法を定めている。						—																																																															
細項目1-1-4 認知症の専門医療の提供 こころの医療センター駒ヶ根は、地域型認知症疾患医療センターの指定に向け取り組むとともに、地元市町村、関係機関等と連携し、認知症に関する専門医療・専門相談を提供する。 阿南病院及び木曽病院は、認知症に対する医療需要へ対応するため、診療及び患者や家族の相談・支援体制を充実する。	全体 <table><tr><th colspan="6">【専門医療相談件数】（こころの医療センター駒ヶ根）</th></tr><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>電話</td><td>958</td><td>1,198</td><td>753</td><td>1,358</td><td>1,119</td></tr><tr><td>面談</td><td>607</td><td>515</td><td>488</td><td>752</td><td>790</td></tr></table> <table><tr><th colspan="6">【専門医療相談件数】（木曽病院）</th></tr><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>電話</td><td></td><td></td><td>30</td><td>47</td><td>35</td></tr><tr><td>面談</td><td></td><td></td><td>2</td><td>14</td><td>12</td></tr></table> <table><tr><th colspan="6">【相談業務（院外）】</th></tr><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>阿南病院</td><td>194</td><td>112</td><td>118</td><td>93</td><td>47</td></tr></table>	【専門医療相談件数】（こころの医療センター駒ヶ根）						項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	電話	958	1,198	753	1,358	1,119	面談	607	515	488	752	790	【専門医療相談件数】（木曽病院）						項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	電話			30	47	35	面談			2	14	12	【相談業務（院外）】						病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	阿南病院	194	112	118	93	47	B	B	●各病院は引き続き、認知症の医療需要に対応していただきたい。 ・専門医療相談件数は、こころの医療センター駒ヶ根、木曽病院ともに増加している。引き続き取り組まれない。
【専門医療相談件数】（こころの医療センター駒ヶ根）																																																																						
項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																	
電話	958	1,198	753	1,358	1,119																																																																	
面談	607	515	488	752	790																																																																	
【専門医療相談件数】（木曽病院）																																																																						
項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																	
電話			30	47	35																																																																	
面談			2	14	12																																																																	
【相談業務（院外）】																																																																						
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																	
阿南病院	194	112	118	93	47																																																																	
	●駒ヶ根 ・駒ヶ根市の「認知症初期集中支援チーム事業」への看護師と作業療法士の参画に加え、令和5年度から宮田村の同事業に医師を派遣し、支援を開始						—																																																															

第3期 第2 評価結果 大項目1-1

14

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(1-1-4 続き)	●阿南 ・「認知症なんでも相談室」の相談体制は現状を維持した。 ・月1回の神経内科外来時には、認知症看護認定看護師が認知症相談も兼ねて対応した。 ・HDS-Rなどの認知機能スクリーニング検査を認知症看護認定看護師と作業療法士が協働して実施した。 ・院内デイサービスはシルバー人材センターから看護師資格保有者を派遣で体制を維持し、入院患者の認知機能低下や生活の質を維持できるように活動を継続した。 ・高齢の入院患者が多い状況を背景に、入院早期からせん妄リスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して非薬物療法（院内デイサービスなど）を中心にせん妄対策を行った。 ・認知症看護認定看護師が院内デイサービスの運営に関わることで、認知症の入院患者の生活の質を維持した。 ・出前講座で認知症に係る講座を開講し、施設・自治体の要請により認知症看護認定看護師が講師を務めた。		—
	●木曾 ○ 認知症疾患医療センター（連携型）の指定 ・令和4年4月に長野県から認知症疾患医療センター（連携型）の指定を受け、認知症疾患医療センター運用フローを作成し活動を開始。相談窓口として、直通電話及び直通メールを設置し、患者サポートセンターや脳神経内科窓口においても相談を受付けた。また、認知症研修会やフォーラムを桔梗ヶ原病院と共催で開催し、地域住民や福祉関係者に向けた啓発活動を実施した。令和6年度に認知症看護認定看護師教育課程1名修了。		—

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																	
細項目1-1-5 介護サービスの提供 阿南介護老人保健施設、木曽介護老人保健施設は、適切かつ充実したサービスを提供する。 阿南病院は、訪問看護ステーションの開設により地域の在宅介護の提供体制を充実させ、木曽病院は、介護医療院の運営を行い介護ニーズに適切に対応する。	全体	【介護老人保健施設利用実績】（阿南老健）					C	B	●阿南介護老人保健施設、木曽介護老人保健施設は、訪問看護ステーション等も活用しながら、引き続き在宅復帰に重点を置いた取組を続けられたい。 ・訪問看護ステーションの利用者増に、引き続き様々な角度からアプローチいただきたい。																														
		<table><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>入所者数（人）</td><td>13,635</td><td>13,969</td><td>14,322</td><td>12,681</td><td>12,720</td></tr><tr><td>通所者数（人）</td><td>378</td><td>607</td><td>679</td><td>441</td><td>522</td></tr><tr><td>入所単価（円）</td><td>10,454</td><td>10,992</td><td>11,675</td><td>11,565</td><td>12,209</td></tr><tr><td>通所単価（円）</td><td>10,040</td><td>11,132</td><td>10,949</td><td>10,815</td><td>11,349</td></tr></table>								項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	入所者数（人）	13,635	13,969	14,322	12,681	12,720	通所者数（人）	378	607	679	441	522	入所単価（円）	10,454	10,992	11,675	11,565	12,209	通所単価（円）	10,040	11,132	10,949	10,815	11,349
		項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績																													
		入所者数（人）	13,635	13,969	14,322	12,681				12,720																													
		通所者数（人）	378	607	679	441				522																													
		入所単価（円）	10,454	10,992	11,675	11,565				12,209																													
		通所単価（円）	10,040	11,132	10,949	10,815				11,349																													
		【介護老人保健施設利用実績】（木曽老健）																																					
		<table><tr><th>項目</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>利用者数（人）</td><td>14,915</td><td>15,648</td><td>15,684</td><td>15,326</td><td>15,495</td></tr><tr><td>通所者数（人）</td><td>478</td><td>23</td><td>102</td><td>86</td><td>187</td></tr><tr><td>入所単価（円）</td><td>13,036</td><td>11,904</td><td>14,013</td><td>12,538</td><td>15,349</td></tr><tr><td>通所単価（円）</td><td>10,286</td><td>3,391</td><td>9,552</td><td>9,017</td><td>10,603</td></tr></table>								項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	利用者数（人）	14,915	15,648	15,684	15,326	15,495	通所者数（人）	478	23	102	86	187	入所単価（円）	13,036	11,904	14,013	12,538	15,349	通所単価（円）	10,286	3,391	9,552	9,017	10,603
		項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績																													
利用者数（人）	14,915	15,648	15,684	15,326	15,495																																		
通所者数（人）	478	23	102	86	187																																		
入所単価（円）	13,036	11,904	14,013	12,538	15,349																																		
通所単価（円）	10,286	3,391	9,552	9,017	10,603																																		
【訪問看護ステーション利用実績（利用者数）】（単位：人）																																							
<table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>8,909</td><td>8,062</td><td>7,813</td><td>5,929</td><td>5,486</td></tr><tr><td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>1,932</td><td>1,796</td><td>2,282</td><td>1,845</td><td>1,522</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>2,963</td><td>2,767</td><td>2,533</td><td>2,167</td><td>2,221</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>4,169</td><td>4,254</td><td>3,455</td><td>3,421</td><td>4,486</td></tr></table>					病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	8,909	8,062	7,813	5,929	5,486	こころの医療センター駒ヶ根	1,932	1,796	2,282	1,845	1,522	阿南病院	2,963	2,767	2,533	2,167	2,221	木曽病院	4,169	4,254	3,455	3,421	4,486					
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																		
信州医療センター	8,909	8,062	7,813	5,929	5,486																																		
こころの医療センター駒ヶ根	1,932	1,796	2,282	1,845	1,522																																		
阿南病院	2,963	2,767	2,533	2,167	2,221																																		
木曽病院	4,169	4,254	3,455	3,421	4,486																																		
【介護医療院利用実績（患者数）】（単位：人）																																							
<table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>木曽病院</td><td>5,834</td><td>6,449</td><td>5,889</td><td>5,212</td><td>5,424</td></tr></table>					病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	木曽病院	5,834	6,449	5,889	5,212	5,424																							
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																		
木曽病院	5,834	6,449	5,889	5,212	5,424																																		

第3期中期計画		指標／法人自己評価		県評価	
小項目1-2 地域連携の推進		—	A	A	
細項目1-2-1 地域医療構想への対応 地域医療構想を踏まえ、地域医療構想調整会議における議論を通じて、地域における医療連携体制の強化について検討し、県立病院としての役割・使命を果たす。		●信州 ・長野医療圏において急性期病院が多く存在する中、当院は、一般急性期医療を主軸に求められる役割を果たした。地域の医療機関との円滑な連携に努めることを医師部会の共通認識とし、状態の安定した患者を近隣のクリニック等に積極的に紹介した結果、逆紹介率が上昇。 ・救急患者の初期対応や比較的症状が軽い患者に対する急性期医療に関しては、一部の疾患の三次救急にも対応する。 ・産科医療の提供については継続し、在宅医療については、須高地域の在宅医療・看護などの需要に対応すべく、訪問看護ステーションはなみずきを開設。 ・感染症センターを活用し、長野県内の感染症対策の中核病院としての役割を果たした。 ・他院で専門的な検査や治療が必要となった場合の受け入れを徹底し、紹介と逆紹介の好循環の実現に向けた取り組みを実施。	B	B	●地域医療構想調整会議等を通じて、各地域の医療提供体制における県立病院としての役割を果たした。
		●阿南 ・地域医療構想において、当院と近隣の診療所とが役割分担と連携を強化し、地域の医療、介護体制を維持することを求めていることから、常勤医不在の診療所への医師派遣、医療機器の共同利用の推進など、地域の診療所との連携に取り組んだ。 下伊那南部地域の保健・医療・福祉の連携強化を図ることを目的に「地域医療福祉連携会議」を開催し、近隣の社会福祉施設、在宅福祉関係者と情報共有と課題の検討を行い、在宅医療を中心とした地域医療体制を維持・推進した。			—
		●木曽 ・木曽医療圏地域医療構想調整会議に出席し、木曽病院の医療体制等について報告や意見交換を行った。令和6年度の会議では、令和8年度以降の産科医療体制の見直しについて公表を行った。			—

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価				
細項目1－2－2 地域包括ケアシステムの推進 地域の実情に応じた医療・介護ニーズに適切に対応するため、関係機関等と連携し、在宅医療に積極的に取り組むとともに、地域における各病院の立ち位置に応じて地域包括ケアシステムにおける役割を果たす。 こころの医療センター駒ヶ根は、精神障がい者の地域生活を支援する体制を強化し、こども病院は、小児の訪問診療を充実する。	全体	【地域包括ケア病床稼働率】（単位：％）					A	A	●地域包括ケアシステムを推進するため、各病院は地域包括ケア病床や訪問看護ステーションの適切な運用や地域の他機関との連携を推進した。 なお、信州医療センターは新型コロナウイルス感染症対応のため、地域包括ケア病床を転用した。		
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績	
		信州医療センター	84.1	69.8	43.3	8.2				-	
		木曽病院	41.7	55.3	54.7	52.4				76.7	
		【紹介率】（単位：％）									
		病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			令和6年度実績	
		信州医療センター		33.1	28.4	24.5	34.3			35.7	
		こころの医療センター駒ヶ根	49.0	52.5	49.3	38.5	44.0			53.9	
		阿南病院	21.5	31.2	34.2	26.2	21.5			27.1	
		木曽病院	27.0	20.1	19.0	19.0	19.5			22.4	
		こども病院	77.0	70.5	69.0	74.6	77.1			72.9	
		【逆紹介率】（単位：％）									
		病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績			令和6年度実績	
	信州医療センター		23.8	26.8	26.7	33.8	40.8				
	こころの医療センター駒ヶ根	31.0	48.1	44.6	38.2	39.0	37.6				
	阿南病院	13.5	19.6	22.4	21.7	18.1	23.5				
	木曽病院	18.1	28.0	31.0	31.3	26.5	31.7				
	こども病院	73.9	80.6	78.6	84.4	99.9	107.8				
	●信州										
	・須高地域、長野地域等の医療機関及び福祉施設等を対象に地域医療連携交流会を開催し、地域医療連携の一層の推進を図るとともに当院の診療体制の特徴や強みを発信。										
	・令和6年4月に訪問看護ステーションを開設し、在宅医療体制を充実。高齢化の進展に伴う在宅医療ニーズへ対応するとともに、特定行為研修「在宅パッケージ研修」修了者を訪問看護ステーションに配置し、体制の強化を図った。										
	・令和6年4月に入退院支援室に新たに看護師長を配置し、入退院支援を強化するとともに、各病棟へ入退院支援の専任看護師を配置し、転院時の情報共有をスムーズに実施。										
	●駒ヶ根										
・令和5年度に精神障がい者の退院後の地域定着を見据えて、入院時から多職種チームで支援を行う「包括的支援マネジメント」を導入											
●阿南											
・コンサルタントを活用し、地域の人口・年齢分布等に基づいた効率的で収支改善に繋がる病床運営を検討した。地域医療計画を踏まえ、届出病床数を令和6年4月に85床から65床に、令和7年3月に65床から52床に順次削減するとともに、周辺の関連施設との連携を強化し、地域包括ケア病床の稼働率向上と適切な運用に努めた。											
●木曽											
・圏域に一つしかない有床の医療機関としての役割を果たせるよう、地域の医療機関・介護関連施設を管理者とともに訪問し、ニーズを拾い上げた。また、顔の見える関係構築することで、入院患者の退院支援がスムーズにいくようになった。											
●こども											
・24時間の救急担当医配置などの救急医療体制をとる中で、救急患者の受入や、ドクターカーの出動を行い、長野県の小児高度救急医療及び地域小児救急の後方支援機能を果たした。											
・地域医療支援病院として、機器の共同利用など、地域に開かれた病院として地域の医療機関との連携を推進した。											

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																							
細項目1－2－3 地域の保健・福祉関係機関等との連携の推進 各病院は、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関やNPO等と連携し、児童虐待への対応や発達障がい児、医療的ケア児への支援等に取り組む。 また、市町村等が行う健康増進施策と連携した疾病予防及び母子保健、地域のニーズに応じた健康寿命の延伸に資する取組や地域の福祉関係機関等が行う退院後の支援等に対し、積極的に協力する。	全体	【公開講座の実施回数】（単位：回）					A	A	●各地域の医療機関、行政機関等と構成する委員会や協議会、交流会の参加及び開催により、各地域の課題やニーズを把握し、他機関との連携を推進した。 ・公開講座の実施回数等は一部病院を除き概ね増加している。																																				
		<table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>12</td><td>12</td><td>18</td><td>24</td><td>52</td></tr><tr><td>こころの医療センター-胸ヶ根</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td></td><td>8</td><td>8</td><td>16</td><td>18</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>39</td><td>38</td><td>43</td><td>38</td><td>34</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td></tr></table>								病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	12	12	18	24	52	こころの医療センター-胸ヶ根	3	3	4	4	4	阿南病院		8	8	16	18	木曽病院	39	38	43	38	34	こども病院	0	0	2	1	2
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績																																			
		信州医療センター	12	12	18	24				52																																			
こころの医療センター-胸ヶ根	3	3	4	4	4																																								
阿南病院		8	8	16	18																																								
木曽病院	39	38	43	38	34																																								
こども病院	0	0	2	1	2																																								
【市町村事業への参画に係るもの】 （行政機関の委員会、協議会等へ参画している件数）（件）																																													
<table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td></td><td>7</td><td>5</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>こころの医療センター-胸ヶ根</td><td>11</td><td>9</td><td>9</td><td>9</td><td>11</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>2</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td></td><td></td><td>49</td><td>49</td><td>28</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table>					病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター		7	5	5	5	こころの医療センター-胸ヶ根	11	9	9	9	11	阿南病院	3	3	3	4	2	木曽病院			49	49	28	こども病院	0	0	2	2	2					
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																								
信州医療センター		7	5	5	5																																								
こころの医療センター-胸ヶ根	11	9	9	9	11																																								
阿南病院	3	3	3	4	2																																								
木曽病院			49	49	28																																								
こども病院	0	0	2	2	2																																								
●信州 ・令和5年度より、須高地域、長野地域等の医療機関及び福祉施設等を対象に地域医療連携交流会を開催。地域医療連携の一層の推進を図るとともに当院の診療体制の特徴や強みを発信。 ・市町村と連携し対策型胃内視鏡検診・大腸内視鏡検診の啓発を実施。 ・令和6年4月より入退院支援室に専任の師長を配置。市町村や地域の福祉関係機関と連携、協力し、退院後安心した生活が送れるよう在宅療養への移行を実施。 ・DV、小児・高齢者・障がい者虐待などが疑われたり認められたりした場合に、チェックシートを用い早期発見に努めた。多職種で構成している院内ACPT（院内虐待対応委員会）で定期・必要に応じて臨時で会議を開催し、職員間での情報の共有、院内の対応を決定した上で、市町村、保健福祉事務所、児童相談所等の関係機関と連絡を取り、連携して対応。また、外部の支援者会議にも出席し情報を共有、支援体制及び当院の役割を明確にして個別ケースへの対応も行った。 ・須坂市の保健師と当院の産婦人科医・小児科医・助産師・医療ソーシャルワーカー、精神科医等が連携し、妊娠期から産後まで切れ目のない支援を行い、産前産後の母親のメンタルヘルスを向上させ、産後うつ予防、子どもへの虐待防止に貢献した。また、須坂市、小布施町、高山村、長野市との連携により産後ケア事業を受託し、産後に家族の援助が受けられない者や育児に不安がある者を対象として、授乳相談や新生児の一時預かりを行った。																																													
●阿南 ・下伊那南部5町村の首長及び議会議長、地元選出の県議、県機関等を構成員とした病院運営懇談会を開催し、阿南病院の現状を地域に伝え、要望や意見を病院運営に反映させた。 ・下伊那南部地域における保健・医療・福祉の連携の強化を図ることを目的とした「地域医療福祉連携会議」を3回開催し、社会福祉施設、在宅福祉施設の関係者と意見交換し、地域連携の充実と在宅復帰の推進にあたっての問題点や課題の把握に努めるとともに、施設へのリソースナース（認定看護師、特定看護師）の派遣を継続した。 ・下伊那南部地域の中学生が緊急時に一次救命措置（Basic Life Support）が行えるよう、本部研修センター及び阿南消防署の協力を得ながら、胸骨圧迫やAED（自動体外式除細動器）の取り扱いを学ぶ講習会を開催した。																																													

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(1-2-3 続き)	●木曽 ・例年どおり町村等の要請に基づき必要な委員会、協議会等に参画している。令和6年度は木曽地域における今後の周産期医療をはじめとした医療提供体制についての会議に積極的に参画した。		—
	●こども ・R6.9月、R7.2月に松本圏域地域医療構想調整会議に出席し、松本医療圏に必要な医療供給体制について検討を実施。 ・当院は、全県を対象とした高度小児医療の中核病院（小児救命救急医療の三次救急含む）及び県の総合周産期母子医療センターであるため、松本医療圏内だけでなく、二次医療圏を超えた小児周産期医療の提供体制について、引き続き、公立病院経営強化ガイドライン及び地域医療構想の動向を踏まえて、関係医療機関との連携強化と機能分化を図る。		—

第3期中期計画		指標／法人自己評価						県評価		
小項目Ⅰ－3 医療従事者の養成と専門性の向上		－						A	A	
細項目Ⅰ－3－1 県内医療に貢献する医師の確保・養成	全体	【研修医、医学生受入実績】（初期研修医採用人数）（単位：人）						B	B	●各病院とも学生や研修医の受入れ、信大との連携大学院、シミュレーション教育の実施等、医師養成の取組を推進した。 引き続き取り組まれない。
		項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績			
		課程別研修	5	5	4	4	4			
	●信州 ・医師臨床研修については、基幹病院として臨床研修プログラムを充実させ、研修指導体制を強化。臨床研修医の到達度を図る試験（基本的臨床能力評価試験）では、全国でも上位の成績を残した。 ・総合内科医については、令和3年度に信州大学との協定により総合内科医育成学講座（寄附講座）を開設。当該大学から担当教員（内科系）2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手しているが、日本専門医機構が認定するサブスペシャリティ領域に総合内科が認定されていないため、日本専門医機構動向を注視。 ・総合診療専門医の養成については、基幹施設として、他の県立病院は連携施設として、総合診療専門研修プログラムに基づき総合診療医の養成を継続。									
	●阿南 ・臨床研修協力病院として、初期臨床研修医の地域医療研修の受入を行った。（飯田市立病院1人、信州医療センター4人）									
●こども ・県内外の初期研修基幹病院と連携し、初期研修医の積極的な受入を実施した。 ・専攻医採用に向けた取組と専攻医教育の充実を継続した。 ・医学生教育に関して、信州大学の実習病院として各診療科での学生教育受入を推進した。								－		

●各病院とも学生や研修医の受入れ、信大との連携大学院、シミュレーション教育の実施等、医師養成の取組を推進した。
引き続き取り組まれない。

・専攻医採用に向けたオンライン病院見学会や県立5病院Jointセミナーの医師確保に向けた取り組みも、引き続き積極的に行われた。

第3期中期計画		指標／法人自己評価					県評価			
細項目1-3-2 機構職員の養成 全職員を対象とした研修体系の評価と見直しを継続的に行い、研修の充実を図ることにより、職員の知識、技術、資質の向上を図る。 医師、看護師、医療技術職員等の認定資格の取得を推進する。 信州医療センターは、機構本部と連携し、指定研修機関として特定行為注10) ができる看護師の養成を進める。	全体	【内部の研修実施回数】（本部研修センター）（単位：回）					A	S	●研修実施や認定資格の取得促進により、機構職員の養成に取り組んだ。また、資格を保持している看護師が着実に増加している。引き続き努められたい。	
		項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		専門研修等	17	22	26	27				31
		【内部の研修受講者数】（本部研修センター）（単位：人）								
		項目	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		専門研修等	582	766	840	961				971
		【看護師特定行為研修修了者数（内部人数）】（単位：人）								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	0	5	6	9				14
		阿南病院	0	1	1	2				2
		木曽病院	0	3	3	4				4
		こども病院	0	0	1	1				4
		【認定・専門看護師数】（単位：人）								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	11	10	11	11				12
		こころの医療センター 駒ヶ根	4	5	6	6				5
		阿南病院	2	3	2	2				3
		木曽病院	5	6	7	10				10
		こども病院	14	14	15	15				19
●信州										
・看護師特定行為研修については、令和2年10月から研修を開講し、特定行為ができる看護師を令和6年度までに累計30名（機構内23名、機構外7名）を育成したことにより、県の医療水準向上に寄与。また、第3期（令和4年10月から令和5年9月）からは、県立病院機構以外の看護師の受け入れを開始。										
（第1期から第3期までの研修受講状況）										
○第1期（令和2年10月から令和3年9月）は、領域別パッケージ「在宅・慢性期領域」として5名受講										
○第2期（令和3年10月から令和4年9月）は、新たに「血糖コントロールに係る薬剤投与関連区分」を追加し、6名受講										
○第3期（令和4年10月から令和5年9月）は、機構外看護師にも受講対象を拡大し、機構内9名、機構外3名の計12名受講										
○第4期（令和5年10月から令和6年9月）は、機構内3名、機構外4名の計7名受講										
・看護師特定行為研修修了者は、信州医療センター外での養成も含め、年々上昇している。特定行為実施件数も増加傾向にあり、施設内で定着してきていると思われる。										
・認定看護師については、必要な領域は充足している。徐々に次世代の育成が必要な時期にきている。										
・総合内科医については、令和3年度に信州大学との協定により総合内科医育成学講座（寄附講座）を開設。当該大学から担当教員（内科系）2人の配置を受け、研修プログラム作成と専門医確保の準備に着手してるが、日本専門医機構が認定するサブスペシャルティ領域に総合内科が認定されていないため、日本専門医機構動向を注視。（再掲）										
						</				

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価
(1-3-2 続き)	●駒ヶ根 ・令和4年度に児童・思春期、青年期精神科医療の医師育成を行う「子どものこころ専門医研修施設群」の基幹施設に認定 ・小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とする「子どものこころ専門医」を養成するため、県立こども病院、信州大学子どものこころ診療部と連携した運営を開始し、令和5年度に専攻医を1人採用、育成 ・精神科専門医の育成を4人の専攻医に対して行い、内1人が専門医を取得し、未取得の3人についても第4期計画中に取得の見込み	—
	●阿南 ・多職種が参加する摂食嚥下支援チームを立ち上げ、高齢者に多い誤嚥の減少に取り組んだ。また、摂食嚥下外来を令和6年度に開設した。 ・下伊那南部地域の社会福祉施設と当院とで構成する「地域医療福祉連携会議」を開催し、入所施設の当院に対するニーズや施設の問題点や課題の把握に努めるとともに、施設へのリソースナース（認定看護師、特定看護師）の派遣を継続した。 ・医師少数区域等勤務推進事業補助金を活用するなどして、プライマリケア学会をはじめとする医師等の学会参加・発表を推進した。	—
	●木曽 ・認定資格の取得や特定行為研修の受講を推奨し、看護師の技術向上と養成に努めた。	—
	●こども その他の部署でも保健師研修、有機溶剤・特定化学物質主任者技能講習、医師事務作業補助者基礎研修、省エネルギー講習、安全運転管理者、マスキング研修など様々な研修に参加し、研修の充実を図っている。	—
	●本部研修センター ・毎年度、各病院との意見交換会を踏まえた研修内容や実施方法の見直しを行い、新たな選択研修（人事評価制度評価者、労働条件と服務研修、分かりやすい文書作成）の開催や他病院体験研修を多くの部門で実施するなど、研修の実施回数・受講者ともに大きく増加させるとともに業務に役立つ研修を充実させることができた。	—

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価			
細項目1-3-3 県内医療技術者の技術水準の向上への貢献 本部研修センターは、県内外の医療機関等と連携し、シミュレーション教育を活かした研修会、講師派遣等を実施するとともに、同センター木曾分室・こども分室における研修の更なる充実を図り、県内医療従事者の技術水準の向上に向けて取り組む。 また、医療従事者の育成に資するため、医療関係職種の各養成所からの要請に基づき職員を講師として派遣するとともに、学生の実習受入れ等を積極的に行う。	全体	【医師を含む医療専門職学生の受入実習学生数】（機構外から）（単位：人）					A	A	●本部研修センター及び各病院は、シミュレーション教育による研修の実施や講師派遣、様々な研究発表会の開催などを通して、県内医療技術者の技術水準の向上に貢献した。 引き続き取り組まれない。	
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	122	152	174	143				283
		こころの医療センター-駒ヶ根	65	131	108	123				132
		阿南病院	40	40	55	49				43
		木曽病院			12	12				18
		こども病院	34	262	262	502				595
		【看護師特定行為研修受入（外部）人数】（単位：人）								
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績				
	信州医療センター	0	0	0	3	4				
●信州 ・看護師特定行為研修は第3期より院外からの受講生の受け入れを開始。第4期は4名の外部受講生がおり、訪問看護ステーション2名、回復期病院2名の受講者を受入れた。医師数が少ない現場でこそ看護師特定行為が必要となっている現状があるものと思われるため、今後も機構外の看護師を対象とした研修の推進を図りたい。 ・県内の医療従事者を対象とした感染症センターにおける研修を実施。令和6年度は、訪問看護ステーション、在学医療従事者向けのHIV研修会を令和6年10月に実施し、技術水準の向上へ貢献。 ・地域における薬剤師業務の質の向上を目的に、機構外の薬剤師を対象とした「在宅TPN調製に関する研修」の推進。 ・講師として、信州木曽看護専門学校、長野県須坂看護専門学校、清泉大学等へ派遣し、医療従事者の育成に貢献。										
●木曽 ・医療従事者や医事事務等の学生の実習を積極的に受け入れた。										
●こども ・県内外の初期研修基幹病院と連携し、初期研修医の積極的な受入を実施した。 ・専攻医採用に向けた取組と専攻医教育の充実を継続した。 ・医学生教育に関して、信州大学の実習病院として各診療科での学生教育受入を推進した。										
●本部研修センター ・スキルスラボはオンラインを活用した研修や信州医療センターの看護師特定行為研修、須高地域の災害医療研修会等にも利用され、特定看護師の養成や地域の医療機関との連携に活用された。 ・シミュレータは、医師の個人練習が増加したため、使用回数は増加しており臨床や研修に活用されている。										

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価			
細項目1－3－4 信州木曽看護専門学校の運営 看護基礎教育の質を確保し、県立病院の持つ医療資源を活かして、地域医療、高度・専門医療等に幅広く対応しうる看護人材を、安定的かつ継続的に育成する。 看護教員の確保に向け、看護教員養成講習会を受講させるとともに、教員の質向上のため、大学（放送大学）進学を積極的に支援する。	全体	【看護師国家試験の合格率】（単位：％）					C	B	●看護師国家試験の合格率100％を維持している。 引き続き取り組まれない。 ●認知度向上への様々な取組は計画や前年度実績を上回って実施されているが、受験者数、入学者数ともに前年から減少していることから、今までと異なる対策に取り組まれたい。	
		項目名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		合格率	95.5	100.0	100.0	100.0				100.0
		【入学試験の状況】（単位：人）								
		項目名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		受験者数	71	59	51	29				21
	入学者数	28	27	21	19	17				
	●木曽看護 4年度より新カリキュラムによる教育を行った。新カリキュラムで求められるコミュニケーション能力については、地域の施設での実習やボランティア活動を通し、育成につながった。 また、看護実践能力の面では、新型コロナ感染拡大時には実習方法の変更が必要となったが、実習施設の理解・協力もあり他養成所や大学と比べ臨床での実習を継続でき、学びの機会を失うことなく育成に取り組めた。									

●看護師国家試験の合格率100%を維持している。
引き続き取り組まれない。

●認知度向上への様々な取組は計画や前年度実績を上回って実施されているが、受験者数、入学者数ともに前年から減少していることから、今までと異なる対策に取り組まれない。

第3期中期計画		指標／法人自己評価					県評価			
小項目Ⅰ－4 医療の質の向上に関すること		－					B	B		
細項目Ⅰ－4－Ⅰ より安全で信頼できる医療の提供 各病院が連携して医療安全対策を推進し、各病院の医療安全の標準化と質の向上に努める。 また、院内感染防止のため、県立病院間で情報の共有化を図りながら、発生予防と拡大防止対策を推進する。	全体	【医療安全研修会受講率】（単位：％）					B	B	●研修の受講率は向上している。引き続き100%を目指して取り組んでいただきたい。 ●事故等の発生について、改善している指標と悪化している指標が混在している。医療安全の指標は年度計画での目標値の設定を検討されたい。	
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	83.5	78.5	88.5	84.5				89.5
		こころの医療センター-駒ヶ根	100.0	100.0	100.0	100.0				100.0
		阿南病院	77.0	65.0	72.0	65.0				98.5
		木曽病院	74.8	100.0	100.0	100.0				97.1
		こども病院	100.0	100.0	100.0	100.0				100.0
		【インシデント報告総数に対する0レベル報告比率】(%)								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	9.3	7.1	7.1	4.5				5.8
		こころの医療センター-駒ヶ根	17.8	19.8	10.8	10.6				20.8
		阿南病院	5.0	2.0	3.0	3.0				6.0
		木曽病院	12.9	12.5	13.7	12.1				9.2
		こども病院	16.9	8.5	8.8	9.0				11.8
		【入院患者の転倒・転落発生率】（単位：％）								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	4.60	3.10	2.20	3.00				2.30
		こころの医療センター-駒ヶ根	1.60	2.40	2.60	2.60				2.58
		阿南病院	6.10	5.90	5.70	7.80				8.45
		木曽病院	1.57	1.50	1.86	1.92				3.90
		こども病院	1.50	1.40	3.30	1.20				0.90
		【血液培養2セット実施率】（単位：％）								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	86.00	93.80	89.80	90.10				91.10
		阿南病院	97.27	98.98	98.70	97.50				94.70
		木曽病院	93.00	97.40	94.30	93.70				98.10
こども病院	10.70	15.10	11.90	12.50	8.40					

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価
(1-4-1 続き)	【針刺し切創件数】 (単位：件)					
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	信州医療センター	10	13	11	11	11
	こころの医療センター胸ヶ根	0	2	1	0	0
	阿南病院	2	1	3	0	2
	木曽病院	2	9	5	2	8
	こども病院	11	6	11	4	13
	【d2（真皮までの損傷）以上の褥瘡発生率】（％）					
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
	信州医療センター	0.050	0.050	0.050	0.110	0.160
こころの医療センター胸ヶ根	0.013	0.003	0.003	0.003	0.000	
阿南病院	0.200	0.100	0.200	1.400	0.085	
木曽病院	0.057	0.064	0.088	0.122	0.107	
こども病院	0.120	0.500	0.060	0.340	0.280	
【身体的拘束率】 (単位：％)						
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
信州医療センター					13.40	
こころの医療センター胸ヶ根	1.83	1.31	1.50	1.03	0.81	
阿南病院				0.20	0.18	
木曽病院					8.60	
●信州 ・医療安全チェックシートを活用した院内の自己点検を行うことにより、医療安全対策の向上に寄与。また、県立5病院で統一された患者の安全確保の推進、共通課題を見出し、改善策の検討を行い、病院間で情報共有を図った。また、県立病院間での医療安全相互点検も実施。						—
●阿南 ・医療安全においてはリスクマネジメント部会及び医療安全管理委員会をそれぞれ毎月1回、全12回開催した。 ・リスクマネジメント部会では毎月2部署を部会員で巡視し、安全点検を実施するとともに、部会報告を毎月発行し、医療安全ニュース（年3回）とともに職員に配布し、事例を周知した。 ・機構内の5病院が参加する毎月の会議と各病院を訪問する相互点検を実施した。						—
●木曽 ・院内で連携し医療安全対策を推進した。 ・血液培養が1セットのみ提出された場合は、もう1セット提出を依頼したり採取できない理由を聞き、提出率を上げる努力をした。						—
●こども ・感染対策研修会では、基本的な感染対策をテーマに繰り返し実施し知識の定着を図り、抗菌薬の適正使用についても普及に努めている。 ・針刺し・切創だけでなく体液ばく露についても報告を義務付けることにより、産科領域からの報告が増加している。 ・小児専門病院の性質上、血液培養2セット率は低いが、特殊抗菌薬は届け出制になっており、24時間体制で感染制御医師が相談対応し適正使用ができています。						—

第3期中期計画		指標／法人自己評価						県評価				
細項目1－4－2 医療等サービスの一層の向上 患者満足度調査により患者及び家族の要望・要求を把握・分析した上で、よりよい患者サービスの提供に努める。 また、患者の病院選択に資する臨床評価指標及び医療の質の評価指標の提供や、ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）注11）の実践に向けた検討等、患者サービスの一層の向上に努める。	全体	【クリニカルパス使用率】					C	C	●クリニカルパス等の取組による医療の質の向上を患者サービスの向上につなげている。 ●患者満足度調査は、県民が各病院の医療をどう評価しているかを把握する観点で重要である。中期計画でも指標に位置付けられていることから、引き続き調査を行うこと。 ・クリニカルパス適用率は、全病院が令和2～3年度に比べ、令和6年度の値が向上している。第4期中期計画のとおり取り組んでいただきたい。 ・患者満足度は、病院間で異なる調査方法が用いられており比較や評価が難しいため、機構内で統一した尺度で満足度が測られるよう、指標等を検討されたい。			
		(単位：％)										
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績		
		信州医療センター	33.5	36.7	37.0	44.1				46.5		
		こころの医療センター駒ヶ根	76.7	79.6	82.1	83.4				87.6		
		阿南病院		2.3	6.5	11.9				11.9		
		木曽病院		6.4	13.4	18.9				17.3		
		こども病院	33.2	30.2	35.7	38.1				39.9		
		【患者満足度調査結果（入院）】								(単位：％)		
		病院名	内容	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績					令和5年度実績	令和6年度実績
		信州医療センター	診療の満足度	88.9	86.3	88.8					88.5	-
		こころの医療センター駒ヶ根	医療スタッフの対応の満足度	88.4	89.6	84.3					93.2	88.9
		阿南病院	診療の満足度	74.0	82.2	80.0					84.8	-
		木曽病院	総合評価		83.4	77.4					75.0	79.2
		こども病院	診療の満足度	88.1	89.6	89.2					91.1	-
	【患者満足度調査結果（外来）】					(単位：％)						
	病院名	内容	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績		令和5年度実績	令和6年度実績				
	信州医療センター	医療に対する満足度	79.4	79.7	80.2		82.4	-				
	こころの医療センター駒ヶ根	当院を受診してよかった	95.6	96.1	96.3		96.9	-				
	阿南病院	医療に対する満足度	78.7	77.9	77.6		79.0	-				
	木曽病院	総合評価		54.2	59.0		52.0	56.2				
こども病院	医療に対する満足度	88.2	86.1	88.2	87.9		-					
●信州 ・サービス向上委員会にて、研修等を実施し、職員への接遇に対しての意識付けを行った。												
●駒ヶ根 ・令和3年度に病院機能評価（3rdG Ver.2.0）の認定更新を受審。救急医療機能、多職種協働、地域への情報発信などの7項目において、初回認定時よりもS評価が増 ・病院機能評価後も医療の質を維持・向上させるため、院内独自の内部監査員を委嘱。重点監査項目を決定し、内部監査を実施 ・令和5年度に入院患者の利便性向上、病棟看護師の業務負担軽減を図るため、「ICカードキャッシュレス管理システム」の運用を開始												

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(1-4-2 続き)	●阿南 ・病院祭に代わる行事として、地域住民や福祉施設等の近隣関係機関を対象とした医療講演会を開催した。 ・病棟及び外来に患者向け無料Wi-Fiを導入し、利便性向上を図った。 ・外来患者の声掛けや車いす利用者の介助を行う案内係員を引き続き正面玄関に配置した。 ・全職員対象に「認知症サポーター研修」を継続的開催。職員が研修を受講し対象者への理解を深め対応することで、患者サービスの向上に寄与した。 ・自治体の要請を受け、「人生会議」講演会講師として医師を派遣し、住民・関係者等86人の参加があった。 ・コンサルタントの協力を得て、下伊那南部5町村の全世帯（約4,200世帯）を対象とした病院に関するアンケートを実施。自由記述の内容を含め調査結果を職員の間で共有した。		—
	●木曽 ・分娩件数の減少と脳神経内科医師の減少に伴いクリニカルパス使用率が減少した。今後は整形外科のクリニカルパスを拡充していく予定のため使用率は増加を見込んでいる。		—
	●こども ・患者満足度、及び職員満足度調査は、日本医療機能評価機構による調査を予定。 ・QRコード等を活用したWebによる回答方法を併用し、調査回答率の向上を図ると共に、効率化による業務軽減を図る。		—

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価			
細項目1－4－3 先端技術の活用 訪問診療等における遠隔診療の実施や、電子カルテの相互参照、モバイル端末による医療従事者間の情報共有等、医療分野における先端技術の活用により、医療従事者の負担軽減及び業務の効率化を推進するとともに、地域の診療機能の充実を図り医療・介護サービスを提供する。	全体	【情報通信技術を用いた医療・介護サービスの提供、医師負担の軽減に係る取組実績（オンライン診療件数）】					S	A	●オンライン診療等の積極的な導入により、医療従事者の負担軽減や業務の効率化、地域の診療機能の充実に取り組んでいる。引き続き取り組まれない。	
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績			
		木曽病院				17	44			
		こども病院			12	219	228			
	●信州 ・外来の一部の診療科において、タブレットによるAI問診を導入。患者満足度の向上と医師、看護師の業務効率化を実現。 ・AI読影システム活用による見落とし防止等の医療安全対策の強化及び、医師の業務負担を軽減。 ・令和6年4月から「人工関節・下肢関節機能再建センター」を開設。高度で複雑化した整形外科関節疾患の治療を、より安全かつ正確に実施。								－	
	●木曽 ○ AI問診の導入 ・医師及び看護師の負担軽減及び患者サービスの向上のため、外来の一部診療科でタブレットによるAI問診サポートを導入し、初診患者の待ち時間の削減等の負担軽減を実現した。 ○ 外来受診方法の変更 ・令和5年4月の電子カルテ更新に合わせて、番号案内表示システムと自動精算機を導入し、患者のプライバシーの確保と利便性の向上につなげた。 ○ 電子処方箋の運用開始 ・医療DXの一環である電子処方箋の運用に向け、早期からHPKIカードの取得及び郡内の薬局に受入れ体制の整備の働きかけを行い、令和5年8月より県内の病院で初めて運用を開始した。 ・令和7年1月に電子処方箋のセカンド証明機能を追加、同年2月には院内処方対応機能を追加し厚生労働省のプレ運用に参加した。電子処方箋発行率は令和6年度は41.5%と令和5年度16.3%より大幅に増加した。 ○ オンライン診療 ・令和5年9月から巡回診療、令和5年12月からグループホーム3施設、令和6年度は在宅患者でオンライン診療を開始。患者や医師の負担軽減を図り、持続可能な医療提供体制の確保に寄与した。								・木曽病院は、令和5年度から開始したへき地巡回や施設診療でのオンライン診療を充実させた。また、長野県の病院で初となる電子処方箋の運用を開始し、地域で活用している。	
	●こども ・オンライン産前保健指導を継続し、動画配信による産前教室を実施している。								・こども病院は、病院の特性を踏まえたオンライン診療を充実させている。	
細項目1－4－4 信州大学等との連携 こころの医療センター駒ヶ根及びこども病院における信州大学との連携大学院教育等により、職員の研究活動を推進し専門性の高い医師等の養成を行う。 県と信州大学との地域医療の推進に関する覚書に基づき、県立病院と信州大学医学部附属病院との電子カルテの統一等について検討する。	全体	【連携大学院に係る実績】					S	A	●信州大学等と連携し、職員の研究活動を推進し、専門性の高い医師の養成に取り組んでいる。 引き続き取り組まれない。	
		項目	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
		入学者数（人）	こども病院	2	3	4	1	3		
		セミナー回数（回）	こども病院	7	8	12	12	9		
	●こども 県の政策的、先進的な小児医療を担う病院として専門医療の医療技術と実績を臨床に活用した先進的な研究を行い、県内医療水準の向上に貢献した。								－	

第3期中期計画		指標／法人自己評価						県評価		
細項目1－4－5 医療に関する研究及び調査の推進 臨床研究を推進して研究機能を向上させ、医療技術・医療水準の向上に努める。 また、病院機構が行っている取組や研究の成果を、テレビや新聞、ホームページ、公開講座等を通じて広報する。	全体	【研究調査に関する倫理申請件数】					B	B	●研究調査数は、全体としての件数は昨年度より微増しており、積極的に研究に取り組んでいる。病院毎では5病院中2病院が増加及び減少しており、1病院が横ばいである。 ●広報誌、ホームページ、新聞等への広報等、積極的に情報発信している。	
		(単位：件)								
		病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績				令和6年度実績
		信州医療センター	30	33	19	22				20
		こころの医療センター胸ヶ根	15	8	10	11				7
		阿南病院	5	4	6	7				5
		木曽病院	7	5	14	16				10
	こども病院	83	93	98	105	125				
●信州 ・学会、院内研修会等の活動、医療に関する職員の学術研究や講演会活動実績を病院ホームページにて公開。 ・院外広報誌「かがやき」の発行や、マスメディアを利用した病院広報・PRにより、健康に関する関心を高め、地域の健康増進に寄与。										
●こども ・科研費の活用による研究の促進と最先端医療に対応できる人材の育成（AMED、厚労科研、文部科研、民間研究資金等の外部資金による9研究課題を実施中） ・医療技術、医療水準の向上に資する「長野県立こども病院医学雑誌」を発行。										

大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

機構の評定

C

県の評定

C

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価
大項目2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 医療組織に適した業務運営体制の整備・効率化に努めるとともに、地方独立行政法人制度の強みを活かし、病院等と機構本部がさらに一体性を高め、柔軟性・自律性・迅速性のある病院経営を行う。	第3期中期計画の期間における業務運営に関しては、各病院で医師の健康確保と地域医療の確保の観点から、遠隔医療等の先端技術の活用や、他職種へのタスク・シフティング、交代制勤務の導入等、働き方改革の取組を実施し、職員の総労働時間の短縮等、適正な労働環境の整備に努めた。 また、医療組織に適した新たな人事評価制度の本格導入、働き方改革を踏まえた労働管理への対応や職員のワークライフバランスへの配慮、医療の質と経営的な視点を両立させる看護職員の適正配置など、経営環境の変化に対応した組織・人事運営に努めた。 さらに、厳しい経営環境が続く中、令和6年度から機構全体が一丸となって取組み早期の資金収支の黒字化を目指す「機構未来プロジェクト」を開始するなど、業務運営の改善・効率化にも重点的に取り組んだ。	●以下のとおり業務運営の改善等が進められているものの、「職員給与費対医業収益比率」や「職場満足度調査」等に課題があり、更なる改善を要する。中期計画や【今後取り組むべき課題】への対策を実行いただきたい。 ●新たな人事評価制度の本格導入による的確な組織・人事運営など、業務運営体制の整備が進められている。 ●外部コンサルタントを活用し、資金収支の均衡を目指す「機構未来プロジェクト」を開始し、様々な観点からの経営改善方策が検討されるなど、業務運営の改善が進められている。第3期の成果の1つと考えられ、より大きな成果を期待したい。 ●職員全体の超過勤務時間は、全病院で前年度に対して縮減できている。更に新しい勤務体制の導入やタスク・シフト／シェアによる医師の勤務環境の改善や各種管理システムの導入等による業務の効率化も図られている。

【第4期中期目標期間に取り組むべき課題】	●現在機構未来プロジェクトにおいて検討しているガバナンスの強化等、経営改善に繋がる仕組みの構築を着実に進められたい。 ●業務の健全かつ効率的な運営を担うために、経営的視点を持った職員の育成が重要であることから、職員が経営に主体的に参画する取組について対策を講じられたい。例えば、「機構未来プロジェクト」等の機会を活用し、職層問わず収益や費用の改善策を提案できる仕組みを設けること等で改善を図られたい。また、本部主導で、各病院の優れた取組を機構全体に横展開することを併せて検討されたい。 ●中期計画の達成のため、病院毎に目標を数値化し、達成度合い（前年度または当該年度計画との比較及び各年度の実績を踏まえる）で評価できる仕組みを設けること。また、達成した所属や、顕著な功績を挙げた個人には、施設機器の導入、報奨金、研修・学会への参加等のインセンティブについて、人事評価制度の見直しを含めて検討すること。 なお、インセンティブの検討に当たり、医療は多くの職員同士の連携や協力が重要なため、個人向けのインセンティブが連携や協力を阻害しないように留意すること。 ●大項目1の認定看護師、認知症医療相談員及び中期計画で記載している経営人材等、人的投資の仕組みを構築すること。 ●職員給与費対医業収益比率が100%を越えている病院や前年度から大きく増加している病院については、他県事例も参考にしながら具体的な改善策を検討されたい。 ●超過勤務時間の更なる縮減に向けて引き続き検討されたい。 ●職場満足度調査は引き続き行うこと。
----------------------	--

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価		
小項目2－1 業務運営体制の強化 医療組織に適した人事評価制度を構築するとともに、医療環境の変化に柔軟に対応し、医療機能や病院規模に応じた適切な職員配置を進める等の確な組織・人事運営を行う。 職員満足度調査等を活用し、職員が意欲を持って働くことのできる職場環境の整備に努める。また、病院運営に一体的に取り組むため、経営状況や経営改善の取組について情報共有に努める。	全体						C	C	●機構未来プロジェクトを開始し、様々な観点からの経営改善方策が検討された。【今後取り組むべき課題】に記載したような取組の検討及び実行を加速していただきたい。 ●組織にあわせた人事評価制度については、チームまたは個人への報奨金等に反映されるよう人事評価制度の検討を進められたい。 ●職員給与対医業収益比率が100%を超える病院や上昇傾向にある病院について、具体的な改善策が必要である。 ・上記の指標も参考として適切な組織・人事運営に取り組まれたい。
	【職員給与対医業収益比率】 (単位：％)								
	病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
	信州医療センター		63.2	61.6	61.4	64.3	64.1		
	こころの医療センター駒ヶ根		108.7	119.0	110.6	111.3	105.9		
	阿南病院		111.6	102.9	101.7	108.5	108.7		
	木曽病院		78.9	74.2	79.5	85.2	81.3		
	こども病院		76.4	76.9	79.9	76.1	80.2		
	【100床当たりの職員数】 (単位：人)								
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績			
	信州医療センター	134.9	138.2	120.1	126.8	122.3			
	こころの医療センター駒ヶ根	106.2	107.8	114.0	114.7	128.7			
	阿南病院	118.4	111.8	115.2	118.0	162.5			
	木曽病院	126.0	125.9	129.4	122.4	181.1			
	こども病院	239.2	229.5	233.6	236.7	250.8			
●信州 ・院長等によるヒアリングを全部署で行い、PDCAによる各部署の進捗管理及び課題の分析を実施。 ・求められる医療サービスの提供に必要な職員を配置。								－	
●駒ヶ根 ・令和4年度から、病院運営会議において各病棟の前月の状況について病棟師長が報告する仕組みを取り入れ、職員全体で現状理解と課題解決に向けた取組みを促進 ・毎月の病院運営会議の決定事項と経営状況について、「病院運営会議だより」としてグループウェアで全職員に発信し、職員の経営に対する意識向上と情報共有を推進								・職員給与対医業収益比率が令和2～5年度の全期間で100%を超えている状況であり、具体的な改善策が必要である。	
●阿南 ・人口減少が著しく地域に立地し、入院単価が他の病院と比較して低いことから、医業収益のみでは不採算となり、運営費負担金によって病院経営が成り立っている状況にある。 ・令和6年度においては、病棟の集約化と2度にわたる病床数削減により職員数の適正化に取り組んでいる。								・職員給与対医業収益比率が令和2～5年度の全期間で100%を超えている状況であり、具体的な改善策が必要である。	
●木曽 ○ アメーバ経営の推進 ・令和2年1月から京セラ式アメーバ経営を導入し、部門別採算制度の確立、経営意識を持つ人材の育成、全員参加経営の実現に向け、年度計画・予算及び人事評価制度と紐づけたBSCを策定し、確実な目標達成に向けた取組みを実施した。また、毎月の時間当り採算表の共有、部署別面談により採算管理と改善活動のPDCAサイクルを確立した。 ○ 病院機能評価の受審 ・病院機能評価の受審準備にあたって、課題の抽出、課題解決への進捗管理等、医療の質の継続的な改善を確保するため、院内で積極的に取り組む職員をQM推進員に任命し、院内での改善活動を推進した。病院機能評価の「3rd Ver.3.0の一般病院2」と副機能として「慢性期医療（療養型病棟）」を令和5年12月に受審し、更新した								・職員給与対医業収益比率が令和2～6年度の間で上昇しており、具体的な改善策が必要である。 ・時間当り採算表とBSCを用いるとともに、関係者間の面談の実施により取組状況と課題を共有・確認しながら進めている。	
●こども －								・職員給与対医業収益比率が令和2～6年度の間で上昇しており、具体的な改善策が必要である。	

第3期 第2 評価結果 大項目2

33

第3期中期計画	指標／法人自己評価					県評価																																																																									
(2-1 続き)	●本部研修センター ・職員の計画的な採用及び適正な配置 適材適所を原則とした計画的な採用活動を実施するとともに、事務職について人材育成や業務継承の適正化及び効率化の観点から、年度中途でも院内又は地域内異動が柔軟に行えるようにした ・医療組織にふさわしい人事評価制度の導入 職員の業績や能力を的確に評価し、人材育成や人事管理に活用するため、令和5年度から新しい人事評価制度を本格導入した ・職員満足度調査（組織文化調査）の活用 職員満足度調査（組織文化調査）について、調査実施機関からの具体的取組み案を合わせた調査報告を受け、職場環境の整備に努めた ・看護師のキャリア開発ラダーの見直し 看護師の実践能力評価の標準化を図るため、ラダーの見直し作業を実施し、レベルごとの目標と行動目標、行動目標の解説を作成、令和2年度から新しいラダーの運用を開始した。また、合わせて管理者ラダーの運用も開始した。令和4年度に介護福祉士ラダーを作成し試行を開始した						・組織にあわせた人事評価制度を令和5年4月から本格導入した。 ・職員満足度調査を活用して、職場環境の整備に努めた。なお、令和6年度は5病院中4病院で調査がされていない。																																																																								
小項目2-2 働き方改革への対応 医師の健康確保と地域医療の確保の観点から、訪問診療時に利用可能な遠隔医療等の先端技術の活用や、他職種へのタスク・シフティング（医行為の一部を他の職種へ委譲すること）、交代制勤務の導入等、職員の働き方を工夫する。また、職員の総労働時間の短縮等、適正な労務環境の整備に努める。	全体	【超過勤務時間の実績】（医師 一人平均）（単位：時間） <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>372</td><td>354</td><td>390</td><td>318</td><td>293</td></tr><tr><td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>76</td><td>58</td><td>57</td><td>95</td><td>69</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>359</td><td>331</td><td>285</td><td>309</td><td>223</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>368</td><td>412</td><td>373</td><td>360</td><td>371</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>426</td><td>475</td><td>449</td><td>426</td><td>436</td></tr></table> 【超過勤務時間の実績】（職員全体 一人平均）（単位：時間） <table><tr><th>病院名</th><th>令和2年度実績</th><th>令和3年度実績</th><th>令和4年度実績</th><th>令和5年度実績</th><th>令和6年度実績</th></tr><tr><td>信州医療センター</td><td>160</td><td>160</td><td>157</td><td>147</td><td>138</td></tr><tr><td>こころの医療センター駒ヶ根</td><td>57</td><td>50</td><td>45</td><td>53</td><td>47</td></tr><tr><td>阿南病院</td><td>86</td><td>106</td><td>90</td><td>61</td><td>57</td></tr><tr><td>木曽病院</td><td>102</td><td>134</td><td>172</td><td>155</td><td>104</td></tr><tr><td>こども病院</td><td>143</td><td>133</td><td>129</td><td>154</td><td>137</td></tr></table>			病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	372	354	390	318	293	こころの医療センター駒ヶ根	76	58	57	95	69	阿南病院	359	331	285	309	223	木曽病院	368	412	373	360	371	こども病院	426	475	449	426	436	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	信州医療センター	160	160	157	147	138	こころの医療センター駒ヶ根	57	50	45	53	47	阿南病院	86	106	90	61	57	木曽病院	102	134	172	155	104	こども病院	143	133	129	154	137	B	B	●各病院で医師の勤務環境改善のため、新しい勤務体制の導入やタスク・シフト／シェアに向けた取組が行われている。 ●一方で、医師の超過勤務時間が前年度比で減少した病院と増加した病院に分かれている。超過勤務時間の更なる縮減に向け、増加した病院では原因の分析を行い、また効果を上げている病院の取組を機構内で共有された。
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																										
信州医療センター	372	354	390	318	293																																																																										
こころの医療センター駒ヶ根	76	58	57	95	69																																																																										
阿南病院	359	331	285	309	223																																																																										
木曽病院	368	412	373	360	371																																																																										
こども病院	426	475	449	426	436																																																																										
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績																																																																										
信州医療センター	160	160	157	147	138																																																																										
こころの医療センター駒ヶ根	57	50	45	53	47																																																																										
阿南病院	86	106	90	61	57																																																																										
木曽病院	102	134	172	155	104																																																																										
こども病院	143	133	129	154	137																																																																										
	●信州 ・医師の働き方改革への対応として、医師の労働時間短縮計画を策定するとともに、医師の自己研鑽に係る規程など各種体制を整備し、特定労務管理対象機関（B水準）として県から令和6年2月に指定。 ・令和2年7月から看護職員ユニフォーム2色制を導入。業務の利便性を向上。 ・令和3年6月から南2階病棟から南6階病棟に、夜間看護補助者を配置。看護師のタスク・シフトを推進。 ・医師から薬剤師へのタスク・シフトとして、「エドキサパンの術後内服における用量変更プロトコル」の運用を開始し、処方の一部を薬剤師が実施。						—																																																																								

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(2-2 続き)	●木曽 ○ タスクシフト・ボランティア等の活用 ・特定看護師及び診療看護師の育成強化、臨床検査技師・診療放射線技師・臨床工学技士の厚生労働省の告示研修を推奨した。内視鏡業務への介入や造影剤検査時の静脈路確保等実際の取組みも開始し、タスクシフトの推進を行った。 ・ボランティア活動の拡充及び看護・医療系学生を対象としたサポートスタッフの活用により、看護職員の負担軽減につながった。 ○ 医師等の超過勤務への対応 ・信州大学医学部附属病院医師によるスポット当直及び当直明け等の職務専念義務免除制度の活用により、医師の負担軽減を行うとともに、コンサルタントを活用し医師の超過勤務縮減を推進した。 ・期間を通じて医師、全職員共に超過勤務時間は上下を繰り返している。毎月の労働安全衛生委員会等で随時所属別の超過勤務時間を共有してきたが、今後は勤務時間が延びている部署に短縮を呼びかけるだけでなく、短縮できている部署にその状態の維持を呼びかけることも実施していきたい。 ○ 地域住民への広報 ・医療従事者の働き方改革においては地域住民の理解が必要不可欠であることから、病院だよりや院内掲示などにより当院の働き方改革推進の広報活動を行った		—

第3期中期計画	指標／法人自己評価							県評価
小項目2－3 職員の勤務環境の向上 業務の見直しや効率化の取組等により労働時間の適正な管理や有給休暇の取得促進を図るほか、仕事と生活の両立に向けた働き方への支援や職員相談体制の強化等により、職員が生活との調和を図りながら、やりがいや充実感をもって働くことのできる職場環境の整備を推進する。	全体							C
	【職場環境満足度】						(単位：％)	C ●職場環境満足度は、各病院の水準の低さについて令和5年度評価で指摘した中で、令和6年度は木曽病院以外で実施を見送っている。引き続き調査を行うこと。 また、5病院中4病院で令和2～5年度にかけて満足度50％を切る状態が続いており、また5病院中3病院で令和2～5年度にかけて低下傾向にある。他病院の職場満足度をベンチマークとするなど基準値を設定し、さらなる職場環境の向上が必要である。 また、本指標で用いている結果は総合結果であるが、満足度の低い項目への重点的な対策が必要である。 ●年休取得率は、令和2～6年度にかけて向上している。 ●育休取得率は、令和2～6年度にかけて、男性取得率が9.5％→33.3％と向上している（令和6年度は令和5年度よりは低下）。また女性取得率は100％を維持している。
	病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
	信州医療センター		46.1	43.0	40.1	42.1		
	こころの医療センター駒ヶ根		48.2	47.5	48.2	44.0		
	阿南病院		36.0	44.7	35.0	50.8		
	木曽病院		0.0	44.9	41.4	46.1	47.4	
	こども病院		45.1	46.4	43.5	42.7		
	【年休取得率】						(単位：％)	
		中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
	機構全体		45.1	46.8	64.7	54.8	53.8	
	【育休取得率】						(単位：％)	
	項目	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	
	男性		9.5	6.3	25.0	45.5	33.3	
	女性		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
●信州 ・令和2年7月から看護職員ユニフォーム2色制を導入。業務の利便性を向上。（再掲） ・令和3年6月から南2階病棟から南6階病棟に、夜間看護補助者を配置。看護師のタスク・シフトを推進。（再掲）								
●駒ヶ根 ・令和3年度より看護職員のワークライフバランス充実のため、試行を経て勤務体制を三交代制から二交代制に変更したほか、夜間の看護当直を勤務化することで、医師の夜間当直業務の削減に繋げ、医師の宿日直許可を取得 ・看護師の負担軽減や材料の適正管理を目的とし、令和5年度に「医療材料在庫管理システム」を導入								
●阿南 ・年次有給休暇の取得促進について衛生委員会を中心に取り組み、年間10日以上取得率は87.8％となった。								
●木曽 －								
●こども －								

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(2-3 続き)	●本部研修センター ・働きながら大学院等への進学を希望する職員への支援 就学部分休業制度や自己啓発等休業制度を活用し、働きながら大学院等への進学を希望する職員を支援した。 ・看護職員について、医療安全の確保と経営的な視点を両立させる適正人員数を算出し、適正な職員配置に努めた。 ・各病院で看護補助者等の採用により、タスクシフト・シェアを推進した。 ・育児と仕事の両立を可能とする各種制度（短時間勤務、部分休業等）の正しい理解や効果的な活用方法の説明及び啓蒙に努め、職員のワークライフバランスの充実に努めた。 ・業務効率化や自己研鑽の一層の促進などを目的に、令和4年度から週休3日制の試行を開始した。 ・職員の心身の健康の保持増進、快適な職場環境づくりに向け、保健師のメンタルヘルス巡回相談、健康診断結果に基づく健康相談、ストレスチェック等を実施した。		—

大項目3 財務内容の改善に関する事項

機構の評定

C

県の評定

C

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価
大項目3 財務内容の改善に関する事項 病院機構は、県立病院として求められる公的使命を確実に果たすため、業務運営の改善及び効率化に取り組むとともに、地方独立行政法人法（平成15 年法律第118 号）に基づき、県からの運営費負担金を確保する。	第3期中期計画の期間における財務内容については、不採算な政策医療への取組みに加え、第3期中期計画策定時には想定し得なかった新型コロナウイルス感染症流行後の患者の受療行動の変化等による入院患者数の落ち込みや物価高騰等の影響により、令和5年度決算は11億円を超える機構発足以来最大の経常赤字となる厳しい結果となった。令和2年度から令和4年度については経常黒字を達成しているが、新型コロナウイルス感染症関連補助金（主として病床確保料）による影響が大きく、補助金を除けば経常赤字である。 経営状況の改善を図るべく、外部コンサルタントを活用して、令和6年度から令和9年度までに資金収支の黒字化を目指す「機構未来プロジェクト」を開始し、収益確保と費用削減、投資の適正化の取組を推進する予定となっており、目標の達成に向けて、更なる経営改善に努める必要がある。 【県が第4期中期目標期間に取り組むべき課題とした内容】 ・費用面については給与費では投資財政計画と連動した職員採用計画等を策定し適正規模・配置を管理していくことが必要である。また、材料費や医薬品費についても、現在の取組をさらに強化する必要がある。 【課題に対する取組状況】 ・職員採用は、各病院の病棟編成や看護師採用に向けて適正人員を試算するなどにより、適正配置に努めている。 ・材料費の削減取組については、調達支援・共同購入品の活用及び価格交渉等を実施した。 ・医薬品費の削減取組については、病院と機構本部が連携した価格交渉の実施や医薬品卸評価制度の活用をした。 ・材料費等のベンチマークについては、長野赤十字病院等との県内購買連携病院合同会議に関する協定に参加し、8月に情報交換を実施した。	●経常収支比率は、期間内の累計目標を達成できず改善を要する。医業収益、医業費用ともに計画より悪化しており、費用面では特に給与費の増大が影響している。 ●資金収支は、資金流出が拡大する傾向にあり、資金残高が減少して事業継続に疑義が生じかねない状況である。 ●病棟再編、病床見直し、施設基準検討等の工夫により、令和5年度の病床確保料を除く損益から改善したことは評価できるものの、資金収支の状況からも、令和7年度以降の収支計画どおり、更なる改善が必要。

【第4期中期目標期間に取り組むべき課題】	●経常収支比率が100%を下回る状況は、第4期中期計画のとおり早期に改善が必要である。 ●収益面については、コロナ後の受療動向の変化で患者数が減少した状態が続く中ではあるが、さらなる診療報酬加算や施設基準、DPC評価係数の向上等により収益確保に取り組む必要がある。 ●費用面については給与費では、中期計画で記載した超過勤務縮減等の対策に加え、投資財政計画と連動した職員採用計画等を策定し適正規模・配置を管理していくことが必要である。また、材料費や医薬品費についても、現在の取組をさらに強化する必要がある。 ●資金収支は約▲43億円と、多額の資金流出になっており、事業継続に疑義が生じかねない。喫緊に資金流出を抑える対応が必要である。現況下での収益増や費用減の不確実性を鑑み、確実に資金流出を抑えるには、適切な医療体制を継続するために必要な投資（中期計画の経常・資金収支を維持できる水準）に抑える等の対応が必要である。 中期的には収益力向上のため、病院規模や診療体制の検討が引き続き必要である。加えて、投資・財政計画を策定・運用するとともに、適正な投資水準の設定・投資判断の体制を構築し、資金収支の均衡に向けて取り組まれない。
----------------------	---

第3期中期計画		指標／法人自己評価						県評価					
小項目3－1 経常黒字の維持 経営基盤の確立を目指し更なる経営健全化に努めるとともに、中期目標期間内の累計で経常収支比率100％以上を達成する。 今後必要となる設備投資を考慮し、適切な資金計画を策定する。 【人件費の見積り】 期間中総額 68,729百万円を支出する。 なお、当該金額は、役職員に係る報酬、基本給、諸手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。 【運営費負担金の算定ルール】 救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については、地方独立行政法人法の趣旨に沿って定められた基準により決定する。 建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金等については、経常費助成のための運営費負担金等とする。	全体							C	D				
	【経常収支比率】		(単位：％)		【資金収支】		(単位：百万円)			●経常収支比率は、令和4年度までは各年度で100%を超え各年度計画を達成していたが、令和5年度は95.5%、令和6年度は93.9%と年度計画を下回った。 中期計画の目標値である「中期目標期間内の累計で経常収支比率100％以上」は、期間内の累計99.6%で未達成となった。			
	病院名	期間内の累計目標	期間内の累計		期間内の累計目標	R 2～6累計			●資金収支は、第3期中期計画期間内（5年間）累計での目標▲46.2億円に対して、令和2～6年度の4年間の累計は▲43.1億円、うち令和6年度単年度では▲20.5億円であった。今後も受療動向の大幅な回復が見込めない中、資金流出が見込まれ、資金残高の減少により事業継続に疑義が生じかねない状況である。				
	病院機構全体	100.1	99.6		病院機構全体	▲ 4,618	▲ 4,307		●人件費は令和6年度計画を含めると第3期中期計画期間内累計で71,106百万円となり、中期計画（68,729百万円）を大幅に超過する。				
	【経常収支比率】		(単位：％)										
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績								
病院機構全体	103.8	103.1	101.9	95.5	93.9								
【医業収支比率】		(単位：％)											
病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和6年度目標 (中期計画時)	令和6年度計画						
信州医療センター	83.6	83.6	82.6	79.3	82.0	90.4	90.7						
こころの医療センター-駒ヶ根	63.8	59.0	62.9	62.7	66.6	63.9	69.5						
阿南病院	53.2	57.1	57.3	53.7	54.8	58.3	51.8						
木曽病院	75.5	79.7	73.8	69.8	71.9	78.3	79.2						
こども病院	76.1	76.4	75.2	76.0	73.8	81.6	83.3						
●木曽		・期間内では、令和2年度から令和4年度までは新型コロナウイルス感染症に係る病床確保料等があったため計上収支は黒字であったが、令和5年度に減額、令和6年度に終了、患者数減も響き赤字となった。引き続きアメーバ経営の取組による収支改善に取り組む。							－				
●本部		・機構全体として令和2年度から令和4年度までは経常黒字を維持 令和5年度以降は新型コロナウイルス感染症に関連する補助金の終了等により経常赤字となった。 ・機構未来プロジェクトの開始 令和6年度から令和9年度末の累計で資金収支の均衡を図ることを目標に、法人のみならず健康福祉部を含めたオール長野県で改革に取り組むためのプロジェクトを立ち上げた。また、このプロジェクトを支援するコンサルタントを選定した。令和6年度から本格的な取り組みを開始した。 ・第4期中期計画に向けた中長期ビジョンの策定 2030年を見据え、病院等が目指すべき姿やそれを実現するための重点目標及び主要な取組事項を明示した「中長期ビジョン」を令和5年度に策定した。											－

第3期中期計画	指標／法人自己評価								県評価		
小項目3－2 経営基盤の強化	－							B	C	－	
細項目3－2－1 収益の確保	【医業収益】※病院別損益計算書等より (単位：百万円)							B	C	●期間中の医業収益は、計画に対して約42.3億円下回った。 コロナ後の受療動向の変化で患者数が減少した状況が続く中、さらなる診療報酬加算や施設基準、DPC評価係数の向上等に取り組む必要がある。	
様々な診療報酬加算や施設基準の取得のほかDPC注12) 係数向上の検討等、診療報酬改定に的確かつ迅速に対応し、収益を確保する。 また、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止及び早期回収を行う。	病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績				第3期実績
	機構全体	91,879	16,980	17,643	17,657	17,605	17,759				87,644
	信州医療センター		5,838	6,072	6,224	5,877	6,065				30,077
	こころの医療センター-駒ヶ根		1,269	1,231	1,313	1,290	1,388				6,491
	阿南病院		857	937	970	902	926				4,592
	木曽病院		2,859	3,210	2,982	2,818	2,915				14,783
	こども病院		6,157	6,192	6,168	6,719	6,465				31,700
	【延入院患者数】 (単位：人)										
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績					
	信州医療センター	76,307	75,716	72,158	67,195	67,451					
	こころの医療センター-駒ヶ根	34,779	33,708	34,725	34,764	36,727					
	阿南病院	14,680	15,149	14,826	14,733	15,264					
	木曽病院	40,782	46,839	40,126	38,598	41,259					
	こども病院	49,519	49,891	46,556	47,319	44,951					
	【延外来患者数】（公衆衛生活動含） (単位：人)										
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績					
	信州医療センター	111,308	119,439	128,931	120,281	118,590					
	こころの医療センター-駒ヶ根	39,037	38,937	39,117	37,584	37,524					
	阿南病院	47,565	53,198	48,529	43,141	39,306					
	木曽病院	109,849	119,477	117,978	117,918	117,804					
	こども病院	64,261	67,384	67,842	69,427	69,143					
	【1人1日あたり入院単価】 (単位：円)										
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績					
	信州医療センター	49,596	51,132	53,398	54,875	57,165					
	こころの医療センター-駒ヶ根	28,258	28,075	29,137	28,718	29,718					
	阿南病院	29,671	32,887	34,316	33,957	36,102					
	木曽病院	36,326	36,164	38,244	38,390	38,068					
	こども病院	105,847	104,758	111,954	118,868	121,628					
	【1人1日あたり外来単価（公衆衛生含む）】 (単位：円)										
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績					
	信州医療センター	16,096	16,019	16,180	15,860	17,690					
	こころの医療センター-駒ヶ根	7,029	6,847	7,297	7,367	7,492					
	阿南病院	7,786	6,847	8,250	8,037	9,478					
	木曽病院	11,664	11,756	11,235	10,451	11,161					
	こども病院	13,081	12,945	12,116	13,178	14,187					

●期間中の医業収益は、計画に対して約42.3億円下回った。

コロナ後の受療動向の変化で患者数が減少した状況が続く中、さらなる診療報酬加算や施設基準、DPC評価係数の向上等に取り組む必要がある。

・延入院患者数は、令和2年度に比べて令和6年度には5病院中2病院で増加している。

・病床利用率は、令和2年度に比べて令和6年度は、阿南及び木曽で病床数を見直した影響もあつてか、5病院中4病院で改善している。なお、令和6年度目標は新型コロナウイルス感染症拡大前に設定された値であるため一概には評価できない。

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価	
(3-2-1 続き)	【病床利用率】 (単位：％)							
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和6年度目標 (中期計画時)	
	信州医療センター	68.7	70.0	64.4	73.2	75.7	75.0	
	こころの医療センター駒ヶ根	72.8	70.5	72.7	72.6	76.9	80.2	
	阿南病院	54.3	56.0	54.9	54.5	61.4	55.1	
	木曽病院	61.2	70.3	60.3	58.3	67.4	80.5	
	こども病院	69.2	70.1	66.3	72.2	68.6	79.6	
	【平均在院日数】 (単位：日)							
	病院名	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績		
	信州医療センター	13.8	14.8	15.6	15.0	13.6		
こころの医療センター駒ヶ根	67.5	64.6	68.3	72.4	67.4			
阿南病院	18.3	16.0	16.3	17.8	17.8			
木曽病院	18.3	16.0	15.8	16.4	13.6			
こども病院	12.8	12.6	12.7	11.4	8.6			
【DPC入院期間Ⅱ以内退院率】 (単位：％)								
	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績			
信州医療センター	44.8	45.2	47.1	52.8	53.1			
木曽病院	51.4	49.4	54.4	56.2	52.1			
こども病院	30.6	28.7	30.3	30.7	63.8			
●信州 ・多職種による戦略的な病床管理を行うため、拡大ベッドコントロール会議を継続した。								—
●木曽 ・令和6年4月1日に病床数を197床から149床に変更、診療報酬改定に合わせ6月に病棟再編を実施したが、地域包括医療病棟の施設基準を満たすことが困難であるため、看護職員の負担軽減及び収益改善を目的に令和7年3月に再度、病棟再編を実施し、2病棟体制とした。								—
●こども ・令和3年度に婦人科の標榜科を新設し、患者数の増加を図った。 ・令和5年1月から運用病床を180床から163床に減床し運用。 ・令和6年6月から病棟再編（第3病棟（産科）を混合病棟（産科と小児科）へ、第4病棟と第5病棟を北4病棟として統合）し、効率化を図った。								—

第3期中期計画	指標／法人自己評価	県評価	
(3-2-2 続き)	●信州 ・診療材料費について、令和6年3月からMCH（材料調達支援業者）と契約。診療材料費の削減を実施。 ・施設及び医療機器等の保守費用について、多職種で仕様の見直しや価格交渉を行うことにより、費用を削減。 ・令和6年度、職員宿舎を縮小することにより、費用の削減を実現。		—
	●阿南 ・薬剤管理指導料の算定に積極的に取り組み、令和2年度799件、3年度513件、4年度582件、5年度1,599件、6年度は1,688件となった。		—
	●本部 ・病院と機構本部が連携した卸業者との価格交渉の実施等による医薬品費の削減 令和2年度からコンサルタント、各病院の薬剤部長等と連携した医薬品の価格交渉を行い、医薬品費の削減を行った ・外部委託検査費の削減 令和4年度からコンサルタント等と連携した外部委託検査の価格交渉を行い、外部委託検査費を削減した ・長野赤十字病院等との「県内購買連携病院合同会議に関する協定書」への参加 令和5年4月1日から同協定に参加。診療材料費等の削減を議題に情報交換を実施した ・医薬品卸評価制度の試行 令和5年4月1日から、帳合選定に際し、病院の意向を反映しかつ医薬品卸へ病院の評価をフィードバックすることを通じ、より良い取引関係を継続することを目的とした医薬品卸評価制度の運用を開始した ・電気料金の削減 電力供給会社と令和5年度から新たに電気需給追加契約（法人特別契約）を締結、電気料金を削減した ・コンサルタントを活用した診療材料費の抑制 診療材料等調達支援業務委託契約を行い、まずは信州医療センター及びこども病院において、診療材料の各種見直し等に着手した		—

大項目 4 その他業務運営に関する事項

機構の評定

C

県の評定

C

第 3 期中期計画	指標／法人自己評価	県評価
大項目 4 その他業務運営に関する事項 (各小項目に記載)	第 3 期中期計画の期間におけるコンプライアンスの推進と適切な情報管理については、情報セキュリティに関する研修と個人情報保護に関する研修として、全職員を対象にeラーニング形式による研修を実施し、適切な情報管理に努めるとともに、医療情報システムの課題の洗い出し及び継続的な進捗管理を実施した。また、法人の医療情報システム運用管理規程等を令和 5 年度に新たに制定した。 施設整備及び医療機器に関する事項については、機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、令和 5 年度に長野県立病院機構の修繕改良計画作成に係る基礎調査業務委託契約を長野県住宅供給公社と締結し、年度末までかけて調査等を実施した。 【第 4 期中期目標期間に取り組むべき課題】 ・コンプライアンスの推進、情報セキュリティ対策や個人情報の適切な管理について、全職員が研修を受講するよう取り組まれたい。 ・今後の経営状況と医療提供を考慮した適切な設備投資の規模・水準について、令和 6 年度から開始している「機構未来プロジェクト」にて検討されたい。 ・設備投資については将来の償還額や資金残高とのバランスが必須であることから、機構本部と各病院との間で投資・財政計画等を共有・運用されたい。	●中期目標・中期計画を下回っており、改善を要する。 ●各種研修会の開催によりコンプライアンスの強化及び適切な個人情報の管理を図っており、概ね適正な業務運営に向けた取組が行われている。 ●経常収支の大幅な赤字に伴い、令和 5 年度にフリーキャッシュフローがマイナスに転じた。令和 6 年度は投資の必要性を考慮し、先送りできる投資を抑制した結果、フリーキャッシュフローが改善したものの、借入金の返済を賄えていない厳しい状況が続いている。中長期的な視野と経営状況の両面を踏まえた適切な設備投資の規模・水準について検討が必要である。
【第 4 期中期目標期間に取り組むべき課題】	●コンプライアンスの推進、情報セキュリティ対策や個人情報の適切な管理について、一部の病院では自己評価が高いにも関わらず受講率自体は依然として低い水準にあると考えられるため、引き続き全職員が研修を受講できるよう取り組まれたい。なお、令和 5 年 7 月 6 日付け機構プレスリリースのとおり、パワーハラスメント事案が発生したことから、引き続きハラスメント防止対策について措置を講じる必要がある（地方独立行政法人長野県立病院機構の各事業年度の業務実績に関する評価実施要領 Ⅰ(3)該当）。 ●投資を抑制しフリーキャッシュフローが改善した一方で、職員が安心して医療提供を持続できることも必要なため、必要最低限の投資を削減することのないう、第 4 期の収支計画を達成することが必要である。あわせて、今後の経営状況と医療提供を考慮した適切な設備投資の規模・水準について、令和 6 年度から開始している「機構未来プロジェクト」にて検討されたい。 ●設備投資については将来の償還額や資金残高とのバランスが必須であることから、機構本部と各病院との間で投資・財政計画等を共有・運用されたい。	

第3期中期計画	指標／法人自己評価						県評価	
小項目4－1 コンプライアンスの推進と適切な情報管理 各種研修会等の開催により、法人内のコンプライアンス（法令等を遵守するとともに社会規範を尊重して行動すること）の強化を図るとともに、内部統制委員会及びリスク管理委員会の活動を通じて内部統制等の評価・検証を行い適切な業務運営を行う。 また、長野県個人情報保護条例や長野県情報公開条例等に基づき、保有する個人情報の適切な情報管理と情報セキュリティ対策を講じるとともに、定期的な研修会等により、職員の理解を深める。	全体						A	B ●コンプライアンス研修の受講率は上昇傾向であるものの、受講率の水準は8割未満であり改善が必要である。 ●情報セキュリティ及び個人情報保護研修の受講率は、令和6年度に多くの病院で改善したが、6割台にとどまっている病院もあり、効果的な研修方法の検討等含めて、引き続き改善が必要である。 ●中期計画で設定した目標値等の達成に向けて、取り組まれたい。
	【研修受講率】（単位：％）							
	項目	病院名	中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	
	コンプライアンス研修	機構全体		44.6	51.2	64.3	67.5	
	情報セキュリティ及び個人情報保護研修	信州医療センター				60.0	55.8	
		こころの医療センター駒ヶ根				93.2	75.7	
		阿南病院				94.3	44.8	
		木曽病院				86.1	99.7	
		こども病院				99.8	91.9	
	信州木曽看護専門学校				100.0	70.6		
本部				100.0	100.0			
●阿南 ・情報セキュリティ及び個人情報保護研修の受講率は令和6年度にともに100%となった。								
●木曽 ・令和6年度にIT-BCP(事業継続計画)を新たに策定し院内訓練を実施。訓練では、データセンターバックアップデータ（オフライン）の閲覧手順を確認、また院内外ネットワークの切断手順および、参照用パソコンの現場設置手順を確認した。 ・令和6年度に新任職員等を対象に木曽病院独自の情報セキュリティ研修を3回実施した。 ・リスク対策状況表による職員のセキュリティ意識の醸成を実施した。								
●本部 ・情報セキュリティに関する研修と個人情報保護に関する研修として、全職員を対象にeラーニング形式による研修を実施し、適切な情報管理に努めた ・医療情報システムの課題の洗い出しを実施および継続的な進捗管理を実施。また、法人の医療情報システム運用管理規程等を令和5年度に新たに制定した								

第3期中期計画	指標／法人自己評価							県評価		
小項目4－2 施設整備及び医療機器に関する事項 地域の医療需要や費用対効果等を総合的に勘案し、中長期的な視野に立って、施設及び医療機器の整備を計画的に実施する。 また、相当の年数が経過した施設については、長寿命化を図るために必要な大規模改修を、県と連携して進める。 【施設及び設備の整備に関する計画 （令和2年度～6年度）】 施設・設備の内容：施設及び医療機器等整備 予定額：総額 9,164百万円 財源：長野県長期借入金等 なお、施設等の整備に当たっては、県の気候非常事態宣言を踏まえ、二酸化炭素（CO ₂ ）排出量の削減に取り組む。	全体							D	D	●フリーキャッシュフローが、令和5年度にマイナスとなり、令和6年度は投資抑制によりプラスに転じたが、引き続き厳しい状況が続くと見込まれる。過去よりフリーキャッシュフローで借入金の返済を賄えていない状況が継続しているため、設備投資に必要な資金が確保できていない。 医療提供を安定的に行うための設備投資は必要であるが、現下の厳しい資金状況を鑑み、現在検討・実施中のものも含め、医療体制や病棟再編の検討やその時々を経営状況を踏まえて必要な投資内容の検討が必要である。 上記を考慮した適切な設備投資の規模・水準について、令和5年度から開始している機構未来プロジェクトにて早期に検討されたい。 ●設備投資については将来の償還額や資金残高とのバランスを厳格に管理することが必須であり、そのために、機構本部と各病院との間で投資・財政計画等を共有・運用することが必要である。
	【フリーキャッシュフロー】 （単位：千円）									
		中期計画	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績			
	機構全体		1,364,392	742,420	458,205	▲867,612	240,649			
	●木曾 ・院内の検討委員会や、令和6年度からは本部の審査を実施の上、必要な施設及び医療機器の整備を行った。									
	●本部 ・機構全体の施設（建物・設備）に係る中長期的な整備計画・資金計画等の最適化管理のため、令和5年度に長野県立病院機構の修繕改良計画作成に係る基礎調査業務委託契約を長野県住宅供給公社と締結し、年度末までかけて調査等を実施した									
小項目4－3 中期計画における数値目標の設定 診療機能の充実や経営の安定化が図られているかを検証するため、新公立病院改革ガイドライン等に基づき、医療機能等の指標や経営指標について数値目標を設定する。 また、年度計画においても、病院機構及び各病院に適した数値目標の設定に努める。	●機構全体 診療機能の充実や経営の安定化が図られているかを検証するため、公立病院経営強化ガイドライン等に基づき、医療機能等の指標や経営指標について数値目標を設定した。また、年度計画においても、病院機構及び各病院に適した数値目標の設定を行った。						B	B	●第3期中期計画に掲載された指標に加え、令和5年度に検討した指標を新たに追加し、大項目1から4に記載したとおり実績の評価を行った。 今後も、各指標に基づいて業務の実績を自己評価するとともに、指標の追加・変更や目標値・ベンチマークの設定など、PDCAサイクルを回すために活用されたい。	
小項目4－4 積立金の処分にに関する計画 第2期中期目標期間の最終事業年度終了後、地方独立行政法人法第40条第4項に該当する積立金があるときは、病院施設の整備、医療機器の購入等に充てる。							－	－	－	

令和7年(2025年)9月発行

編集発行：長野県健康福祉部医療政策課

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2

電話：026-235-7260 FAX：026-223-7106

電子メール：kenbyoin@pref.nagano.lg.jp